

全 学 共 通 科 目

E. 全学自由科目

F. 情報科目

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03001	哲学A	選	1～4	2	前期	赤 松 宏
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「西洋哲学と東洋哲学」

【講義内容】 先ず西洋哲学の源流を探り、その後東洋の哲学、特に仏教の哲学を概観する。西洋、東洋の哲学を概観した後、再び哲学とは何かという問題に戻り、随時必要に応じて哲学史にも言及しつつ、概論的に講義する。

【講義計画】 先ずフィロソフィアとして始まった西洋哲学の源流にさかのぼり、プラトンの哲学を中心に解説する。次に東洋の哲学の代表として仏教を取り上げ、仏教の歴史から入り仏教の根本教説である縁起説及び四諦説の解説を試みる。再び哲学とは何かという問題に戻り、哲学的問いかけの性格、哲学と科学について考える。最後に西洋と東洋（日本）の相違についてそれぞれ問答、言葉、法、理論、思想、方法論などについて考えてみる。

【評価方法】 受講状況、レポート、試験などから総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03002	哲学A	選	1～4	2	前期	谷 口 佳 津 宏
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 西洋哲学の源流

【講義内容】 幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための手がかりとして、西洋哲学史上に屹立する二巨頭であるプラトンとアリストテレスをとりあげ、その思想を考える。

【講義計画】

1. 哲学とは何か
2. ソクラテスの哲学
3. プラトンのイデア論
4. プラトンの実践哲学
5. アリストテレスのオルガノン
6. アリストテレスの形而上学
7. アリストテレスの実践哲学
8. プラトン vs. アリストテレス

【評価方法】 筆記試験と出席による。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03011	哲学B	選	1～4	2	後期	赤 松 宏
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「キェルケゴール哲学研究」

【講義内容】 現代思想を論ずるとき、ニーチェとともにキェルケゴールの名を逸することはできない。実存、自由、主体性、不安、死、絶望、単独者、水平化、ルサンティマンなどはすべてキェルケゴールに淵源し、彼が独特の意味をこめて使用し、とらえ深めていった概念である。

【講義計画】 キェルケゴールの生涯を見た後、彼の哲学思想に入る。彼の思想伝達様式として直接伝達及び間接伝達の解説。その後、主要著作の解説に入る。「哲学的断片」、「おそれとおののき」、「死に至る病」、最後に実在の三段階説にも触れる。

【評価方法】 受講状況、レポート、試験等から総合的に評価する。

【テキスト】 工藤綏夫著『キェルケゴール』（清水書院）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03012	哲学B	選	1～4	2	後期	谷口佳津宏
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 近世哲学の主潮流

【講義内容】 幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための手がかりとして、モダンにおける主な思想家をとりあげ、その現代的意義について考察する。

【講義計画】

1. デカルト——近世哲学の創設者
2. 大陸合理論の展開
3. 英国経験論の展開
4. カント哲学の枢要
5. 独逸観念論の展開
6. ヘーゲル——近世哲学の完成者

【評価方法】 筆記試験と出席による。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03021 03022	文学A	選	1～4	各2	前期 後期	細谷 博
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副題】 小説の面白さ、＜読む＞ことの不思議

【講義内容】 『明暗』は、漱石最後の未完の長篇である。われわれの周囲につながる身近な世界が描かれ、どこにでもいるような人間たちがあらわれ、さまざまな駆け引きや愚行をくり返す。なぜそれが、今日なお多くの読者を引きつけてやまないのか。

従来の重厚なイメージにとりまかれた『明暗』を固定的な読みから解き放ち、何よりよくできた面白い小説として読み直してみよう。小説を読むとは、こんなにも面白かったのか、かくも奥行きのあることだったのか、とたしかにわかるように講義をする。

受験勉強に追われ、またつきっかけがなくて小説などほとんど読んだことがない者も歓迎。今やジャパン・マネーを識別する「肖像画」として世界中にばらまかれ、しかも、「カワバタ」や「ミシマ」や「オーエ」ほどにも知られていない我々が夏目金之助の代表作を一冊、この機会にじっくりと読んでみようと思う者、来たれ。

【講義計画】 なるだけわかりやすく、具体的に作品を読み解いていく。重要な箇所を随時指摘し、はじめから順を追って着実に読み進む。ページ数で具体的に指摘するので、テキストは必ず指定のものを用意すること。

【評価方法】 定期試験により評価する。

【テキスト】 後日指定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03041	考古学A	選	1～4	2	前期	重 松 和 男
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 考古学入門

【講義内容】 1) 考古学入門（方法論の特徴など）
 2) 日本の考古学の現状（簡単な概説を含む）
 3) 文化財保護の問題点
 4) 考古学からみた現代生活
 出来るだけスライド・ビデオ等を用いて説明する。

【講義計画】 1、2、3の順に各3～4回

【評価方法】 筆記試験・出席

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03051	考古学B	選	1～4	2	後期	重 松 和 男
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 アジアの考古学

【講義内容】 1) 中国の考古学
 2) インド考古学
 3) その他の地域（東南アジアなど）
 4) 考古学と歴史学・人類学
 出来るだけスライドを用いて説明する。
 ※1、2、3はいずれも簡単な概説

【講義計画】 1、2、3の順に各3～4回

【評価方法】 筆記試験・出席

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03111 03112	西洋史A	選	1～4	各2	前期	岡 地 稔
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 中世ヨーロッパにおける「くに」のなりたち

【講義内容】 意外に思われるかもしれないが、中世ヨーロッパのくにぐににおいては「首都」はなく、王たちは年がら年じゅう旅をしていた。「税を消費するために」とある歴史家はいう。本当だろうか。それより、首都もなく、旅ばかりして、王たる者、いったいどうやってくにを治めたのだろうか。古代ローマには執政官（コンスル）、独裁官（ディクタトル）、元老院、民会など、ずいぶんとしっかりした官職や政治組織があった。そういえばヨーロッパも近世、絶対主義の時代はというと、官僚と常備軍がその指標だった。あれれ、じゃあ、中世には官僚つまり役人はいなかったの？ それじゃあ本当にいったいどうやって中世の王たちはくにを治めたの？——この講義では、中世ヨーロッパの政治・経済・支配などにかかわるいくつかの小テーマを積み重ねていき、最終的に上記の問題を考えるとところまでもっていきたいと思っています。

【講義計画】	序	①人々は旅先の王たちに度々出会った——だから白雪姫も王子様に会えた
	I 実態と問題提起	②巡る力は王者のしるし
		③発つ王、後に何も残さずペンペン草もはえないのか？
	II 小テーマ	④一枚の銀貨から——金は天からまわらない？
		⑤国税なければど酷税あり
		⑥高札のない風景を考察する
	III 考察	⑦王たちはなぜ旅をしたのか？
【評価方法】	試験、および出席状況（出席は重視しないが、欠席は重視する）	
【テキスト】	使用せず	

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03121 03122	西洋史 B	選	1～4	各2	後期	岡 地 稔
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「封建制」——その制度と国家

【講義内容】 中世ヨーロッパにおける政治の仕組みや国家のありようなどを考えるさい、我々にはならず「封建制」というものに出会います。が、「封建制」というとなんだか分かりにくいもので、暗いイメージがもたれるかと思えます。本当にそのようなイメージのものなのか？ この講義では、無理をしても(!)明るい(?)「封建制」を前面に押し出して、「封建制」という分かりにくそうな政治システムを理解することに努めたいと思っています。「封建制」の本質、仕組み、機能などを考えていき、それらと国家との関係、そして具体的にイギリス・フランス・ドイツの3つの中世封建国家それぞれの歩み、その違いを「封建制」との関連で見たいと思います。

【講義計画】 I 政治的紐帯としての封建制
 1) 封建制ってなに？ その暗いイメージはどこからくるのか？
 2) その仕組みを考える
 ①基本の構造
 ②封建関係の特質——誠実な主君、誠実な臣下
 ③形態からの特質——臣下に対し水戸黄門の印籠は真価を発揮できるか？
 II 中世国家と封建制
 1) 問題の所在
 2) 国家構造への封建制の浸透
 3) 中世国家と封建制——きのうに無秩序、明日に秩序を生み出す機能
 4) 封建国家の諸相
 ①イギリス・フランスにおける封建王政——印籠にものをいわす方法
 ②ドイツにおける支配体制——カノッサ事件を生み出したもの

【評価方法】 試験、および出席状況（出席は重視しないが、欠席は重視する）

【テキスト】 使用せず

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03131	美術 A	選	1～4	2	前期	石 黒 淳
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 インドに始まり中国、東南アジア、日本といったアジア諸国で花開いた仏教美術について、スライドを使用しながら講義します。

仏教美術は西紀前5～6世紀頃インド東北部に生まれた釈尊が説いた仏教を背景にした宗教美術です。仏教美術を理解するために仏教についての基礎知識と仏教に大きな影響を与えたバラモン教と呼ばれる宗教について講義します。また仏教やバラモン教を生んだインドやインド周辺国（パキスタン、ネパール、スリランカ）の風土についても講義します。

- 【講義計画】
- ① 仏教美術概説
 - ② 仏教以前のインドの宗教と宗教美術
 - ③ I 仏教の創始者釈尊の生涯①
 - ④ II “ ②
 - ⑤ 仏教の創始者釈尊の生涯の美術（仏伝図）
 - ⑥ I 釈尊の前生物語①
 - ⑦ II “ ②
 - ⑧ 釈尊の前生物語の美術（本生図）
 - ⑨ I 仏像の誕生・ガンダーラ美術
 - ⑩ 全体のまとめ
- 以上の予定で講義を進める。

【評価方法】 筆記試験で評価する。出席を重視する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03132	美術A	選	1～4	2	前期	池 田 洋 子
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 日本の上代・中古美術

【講義内容】 何千年もの長い縄文時代に培われた造形意識に、新たに仏教美術の伝来とともに中国の唐朝の美術が与えた西方的造形感覚は新しい美術を日本に生むことになった。ひたすらに学習し続けた時期から、日本人の気質に合致する形・色を選択して、日本的感性の発露を見せた作品制作が行なわれた時期までの、現存作品をスライド等で提示しながら、日本人が自己の世界の独自の表現方法を求めて幾重にも変化させながら継続してきた日本上代・中古の美術の様相について講義する。講義計画に従い順次その時代の代表的作品について、表現様式・構図法・主題等について分析しながら進める。

- 【講義計画】
1. 縄文時代の造形意識の確立
 2. 飛鳥時代の美術作品
 3. 白鳳時代の美術作品
 4. 天平前期の美術作品
 5. 天平後期の美術作品
 6. 平安初期の美術作品
 7. 平安後期の美術作品
 8. 院政期の美術作品

【評価方法】 講義を通して認識された日本の中古までの美術の目指した方向について、レポート等で論述してもらう形で評価する。

【テキスト】 監修：辻 惟雄 『カラー版日本美術史』（美術出版社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03141	美術B	選	1～4	2	後期	石 黒 淳
他の科目との関連	美術A				他学科履修	重複履修 不可

【講義内容】 美術Aの講義に基づき、インドの古代初期仏教美術について講義します。インドの仏教美術は西紀前1～2世紀頃から運営された仏塔（ストゥーパ）の欄楯飾浮彫りから本格的に開始されます。カルカット・インド博物館が所蔵するパールフトのストゥーパの欄楯遺品やサーンチャーに現存するストゥーパの欄楯の塔門遺跡などに表現された仏伝図や本生図及び動植物の装飾浮彫りなどについて

て主題や表現の特色など細部にわたり講義します。

- 【講義計画】
- ①インドの古代初期仏教美術の概説
 - ②パールフトの欄楯に表された仏教美術
 - ③パールフトの欄楯性の男神、女神像
 - ④パールフトの欄楯性の仏伝図・本生図
 - ⑤パールフトの欄楯貫石の装飾浮彫り
 - ⑥パールフトの欄楯笠石の装飾浮彫り
 - ⑦サーンチャーの遺跡について
 - ⑧サーンチャーの塔門浮彫り・東門、南門
 - ⑨サーンチャーの塔門浮彫り・西門、北門
 - ⑩全体のまとめ
- 以上の予定で講義を進める。

【評価方法】 出席を重視し、筆記試験で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03142	美術B	選	1～4	2	後期	池 田 洋 子
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 日本に於ける水墨画の受容と変容

【講義内容】 墨というモノトーンの彩色具と筆という用具のみで表現する水墨画が、中国に生じてから日本に伝来して、どのようにして日本の中で受け入れられ、新しい表現方法を生み出し、更に新しい日本的な水墨の解釈に基づく作品が制作されていったかを、鎌倉時代から時代ごとに区切った展開を講義する。

- 【講義計画】
1. 13世紀の作品
 2. 14世紀の作品
 3. 15世紀前半の作品
 4. 15世紀後半の作品
 5. 16世紀前半の作品
 6. 16世紀後半の作品
 7. 17世紀初期の作品
 8. 17世紀後期の作品
 9. 18世紀の作品
 10. 19世紀の作品

【評価方法】 レポートによる評価

【テキスト】 監修；辻 惟雄『カラー版日本美術史』（美術出版社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03151	音楽A	選	1～4	2	前期	水 谷 昌 平
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 バロック音楽からクラシック音楽について

【講義内容】 音楽史に沿ってその時代的様式と音楽美を認識し、健全で妥当な音楽観をもつよう吟味探究していきたい。

【講義計画】 上述の目標に向けて、バロック音楽の主要な作品（ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルなど）から、クラシック音楽の主要な作品（ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン）を鑑賞し、理解を深め、その特質と私

たちに及ぼす感性について考察していきたい。

【評価方法】 聴取し、鑑賞した音楽作品についての内容と吟味考察についてのレポート、音楽鑑賞の態度、出席を重視。

【テキスト】 門馬直美『西洋音楽史概説』（春秋社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03152	音楽A	選	1～4	2	前期	W. Dunphy
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 キリスト教音楽

【講義内容】 一概に「キリスト教音楽」と言っても、ミサ曲、オラトリオなどいくつかの種類があるが、ここでは特にミサ曲についてその構成を説明し、さまざまな作曲家による作品を紹介する。

【講義計画】 講義を進めつつ、紹介された曲を実際に鑑賞する。講義期間中にレポートを1回課す。

【評価方法】 出欠、レポートおよび期末試験により評価する。

【テキスト】 プリント配布

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03161	音楽B	選	1～4	2	後期	水 谷 昌 平
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 ロマン派音楽から近代音楽について

【講義内容】 音楽史に沿ってその時代的様式と音楽美を認識し、健全で妥当な音楽観をもつよう吟味探求していきたい。

【講義計画】 上述の目標に向けて、
ロマン派音楽の主要な作品（シューベルト、ウェーバー、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン……）から、近代音楽の主要な作品を鑑賞し、理解を深め、その特質と私たちに及ぼす感性について考察していきたい。

【評価方法】 聴取し、鑑賞した音楽作品についての内容と吟味考察についてのレポート、音楽鑑賞の態度、出席を重視。

【テキスト】 門馬直美『西洋音楽史概説』（春秋社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03162	音楽B	選	1～4	2	後期	W. Dunphy
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 キリスト教音楽

【講義内容】 キリスト教音楽のうち、特にレクイエム（死者ためのミサ曲）に注目し、モーツァルト、ベルリ

オーズ、ブリテンなどの作品を紹介する。

【講義計画】 (音楽Aに同じ)

【評価方法】 (音楽Aに同じ)

【テキスト】 (音楽Aに同じ)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03171	法学A	選	1～4	2	前期	大 川 睦 夫
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 裁判で争われた事件や報道された時事問題を手がかりに現代日本法の理論と実態を考察する。

【講義計画】

1. 「権利のための闘争」
2. 男女の共生
3. 教育を受ける権利
4. 働く人の権利
5. 市民運動の自由
6. 知る権利
7. プライバシーの権利
8. 環境の保護
9. 議会制民主主義
10. 裁判制度
11. 日本の君主制——天皇制
12. 戦争と平和

【評価方法】 試験＋自主レポート

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03172	法学A	選	1～4	2	前期	山 田 秀
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 文化現象としての法

【講義内容】 法と呼ばれるものが文化現象の中で占める位置、有する意義についての理解を促し、法学への入門とする。

【講義計画】 以下の順序に講義を進める予定。

- I 文化に於ける法の位置
 1. 「文化」とは何か
 2. 文化の一部としての法：法領域と他の文化領域との関連
- II 社会統合に於ける法の位置
 1. ヒトから人間へ：二本直立歩行と言語並びに抽象能力
 2. 社会統合(1)：社会化と「良心」
 3. 社会統合(2)：社会化と言語
 4. 社会統合(3)：社会化と社会統制
 5. 社会統合(4)：社会統制と言語
 6. 社会統合(5)：社会契約論
- III 法発展史
 1. 万民法 (ius gentium) の発展
 2. 国際法の誕生
 3. 近代法の登場及び立憲主義思想

4. 近代法の変容：(1)近代法原則の修正、(2)自由国家から社会国家へ、(3)社会法の成立
5. 現代法の課題
Ⅳ 法、政治、教育、倫理：その担い手と存在意義

【評価方法】 定期試験により評価する。

【テキスト】 教科書及び参考書は、開講時に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03181	法学B	選	1～4	2	後期	森 正
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【副 題】 憲法と法の機能・役割

【講義内容】 憲法は国家の最高法規であり、基本法である。この憲法の下に膨大な個別法群が存在する。「法文化」の分野でいえば、わが国においては、社会全般にわたって憲法と個別法がその本来の使命を有機的に果たしているとはいえない。

本講義では、このような問題意識から、主に「裁判」という社会現象をとりあげ、市民の権利の司法的救済とのかかわりで憲法と法の機能と役割を検討し、その問題点を探る。

【講義計画】 (1)講義ガイダンス (2)国民・市民の法意識からみた「法文化」 (3)現代日本の「法文化」の特徴 (4)戦前日本の裁判における憲法・法の機能と役割 (5)戦後日本の裁判における憲法・法の機能と役割 (6)日本国憲法の違憲制の意義 (7)裁判の担い手（当事者・裁判官・検事・弁護士・司法書士） (8)「裁判を受ける権利」の意義 (9)司法への国民参加形態 (10)被疑者・被告人の権利の実態 (11)「冤罪」・「誤判」とその救済 (12)戦後裁判運動の歴史 (13)「法文化」と死刑制度 (14)国民のための司法への道を考える

【評価方法】 定期試験の結果を重視するが、ビデオに関するレポートも評価の一要素とする。

【テキスト】 テキストは使用予定なし。参考文献は適宜紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03191 03193	日本国憲法1・2・3	選	1～4	各2	前期 後期	小 林 武
他の科目との関連	教職単位取得のための必修科目			他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「日本国憲法を実際の事例をとおして生きた姿において学ぶ」

【講義内容】 憲法とは何か、また憲法は私たちの現実の生活の中でどのような働きをしているかを知るため、日本国憲法について、その成り立ちと歴史、国民主権と象徴天皇制、平和主義、人権の保障、統治の仕組みについて述べる。とくに、基本的人権論をくわしく話す予定である。

講義はつねに、現在進行中の具体的な憲法問題をとりあげて、わかりやすいものにしたい。

受講生諸君が、日常生起する憲法問題・法律問題や広く政治・社会の事象に関心をもって出席するよう期待したい。

【講義計画】 ほぼ、次のような項目に即して講義をすすめる。

1. 憲法とは何か
2. 近代憲法と現代憲法
3. 明治憲法と日本国憲法
4. 国民主権と象徴天皇制
5. 平和主義
6. 人権保障のしくみ
7. 平等と自由

8. 社会権
9. 選挙・国会・内閣
10. 裁判と違憲審査
11. 地方自治の保障

【評価方法】 主としてテストで評価する。

【テキスト】 小林 武＝三並敏克『いま日本国憲法は』（法律文化社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03201 03202	政治学A	選	1～4	各2	前期	吉 田 達 志
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 冷戦の本質とその歴史

【講義内容】 冷戦後の世界における日本の位置と役割を理解させる目的のために、米ソの対立を軸とする冷戦の本質と歴史について、①冷戦の起源、②冷戦の展開、③冷戦の終結の順序に従って講義する。

【講義計画】 ①政治の本質（ホッブスの理論を中心に）
 ②ソ連による東欧の共産化と西側の対応
 ③ベルリン封鎖と朝鮮戦争
 ④ソ連の平和攻勢とダレス外交
 ⑤核の時代とキューバ危機
 ⑥国際政治の多極化
 ⑦米ソの核対決
 ⑧日本の安全保障と国際貢献

【評価方法】 試験成績及び出席状況

【テキスト】 使用せず

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03211 03212	政治学B	選	1～4	各2	後期	吉 田 達 志
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 現代日本の政治問題

【講義内容】 現代日本社会が直面する政治問題について、それを日本近代の歴史と文化の中に位置づけて講義する。特に憲法をめぐる問題は、現代日本社会の問題性を解明するための鍵になる点を考慮しながら論を行う。

【講義計画】 ①国際化の時代の日本文化
 ②大日本帝国憲法の成立過程と特徴
 ③日米戦争
 ④日本国憲法の成立過程
 ⑤国民主権と天皇
 ⑥第九条と日本の防衛
 ⑦政教分離と信教の自由
 ⑧三権分立制の変容
 ⑨民主主義の陥穽

【評価方法】 試験成績及び出席状況

【テキスト】 参考書、吉田達志著『日本近代の素描』（高文堂出版社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03221	文化人類学A	選	1～4	2	前期	加藤隆浩
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 文化人類学は、異なる民族の社会や文化を比較し、自己の文化をその中で相対化し把握することを目的の一つとしている。言い換えれば、これは、諸民族の生活様式の差異と斉一性を明らかにすることに他ならない。本講義では、文化人類学のさまざまな手法に基づき、諸民族の説話・伝承をタテ糸に、生業活動・社会関係・儀礼・宗教等をヨコ糸として、社会・文化を「相対化する」とはということなのかを概観する

【講義計画】 ①文化人類学の範囲と区分：「何でも有り」の人類学
 ②人類と民族：背が高くスポーツマン。情熱的でお金持ち。理想の男性は何処に？
 ③文化：「生活と文化を結ぶ松坂屋」を文化人類学が認めない理由
 ④文化化：「おむつ」の取り替え方で国民性が生まれる？；「子守のオジサン」の世界
 桃太郎の精神分析——深層心理学的アプローチ。
 ⑤文化唯物論：カチカチ山＝南方説：たんぱく質のためにヒトはヒトを食べるのか。
 ⑥古典的進化論：母の姉妹は母という世界；説話とは何か？——神話・伝説・昔話。
 ⑦伝播主義 その1：花咲爺の故郷——歴史民族学的アプローチ。
 ⑧伝播主義 その2：ラーメン出世物語
 ⑨実証主義とフィールドワーク：誰でもなれる「絵はがき人類学者」
 ⑩通時態と共時態：中島みゆきとドン・ファンの関係
 ⑪帰納と演繹：「遠山の金さん」型人類学者と「刑事コロンボ」型人類学者；
 説話の形態と型——説話の文法を解く。構造主義と文化形態論。
 誰でもなれる脚本家：「水戸黄門」を書く
 ⑫機能主義：幽霊の子を身ごもる「優しい」女性の話；「男」になって子どもを産ませる女性の話；
 「呪われた私」と「呪った私」との関係
 座敷わらしとキツネ憑き——富と貧富。家族と親族。

【評価方法】 毎月課せられるレポート、定期試験の成績などから総合的に評価する。
 この講義では、多数の文献を読むことになる。それなりの熱意と覚悟が必要であろう。

【テキスト】 寺田和夫編『人類学』（東京大学出版会）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03231	文化人類学B	選	1～4	2	後期	加藤隆浩
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 文化人類学は、異なる民族の社会や文化を比較し、自己の文化をその中で相対化し把握することを目的の一つとしている。言い換えれば、これは、諸民族の生活様式の差異と斉一性を明らかにすることに他ならない。本講義では、文化人類学のさまざまな手法に基づき、諸民族の説話・伝承をタテ糸に、生業活動・社会関係・儀礼・宗教等をヨコ糸として、社会・文化を「相対化する」とはということなのかを概観する

【講義計画】 ①民族誌（記述と解釈）：嘘をつかずに騙す騙しのテクニック
 ②意味：なぜ「赤は止まれ」なのか；浦島太郎と一寸法師——鬼退治。超自然的世界。
 ③文化様式論：見栄っぱり狂詩曲を奏でる人々；贈り物と威信；傘地藏のお返し
 ④相対主義：極東、中近東、東西対決；世界の「へそ」の位置；
 「野蛮」と「理想郷」の発明
 ⑤エスノセントリズム：口頭伝承は非論理的だろうか
 ⑥通文化研究：コンピューターが創った人類学
 ⑦構造主義：「鬼太郎／子泣き爺；目玉の親父／ぬりかべ」である時、
 ネズミ男の位置を求めよ。；結婚式のなかの「お葬式」
 鶴の恩返し——男性と女性。婚姻。自然と文化。
 ⑧認識人類学：「唇」に髭をはやした怪物を創った翻訳家
 ⑨文化記号論：嘉門達夫の「鼻から牛乳」は何故笑えるか。

絵姿女房——笑い和社会構造

⑩進化論主義：それでも社会は進化する！

⑪文化変容と社会変化論：スカートの長さの変動

大地震発生：死者が蘇り、黄金の時代がやってくる！

⑫都市と複合社会：母国語と母語；説話の形成：と変貌：猫肉ハンバーガーと口裂け女

【評価方法】 毎月課せられるレポート、定期試験の成績などから総合的に評価する。
この講義では、多数の文献を読むことになる。それなりの熱意と覚悟が必要であろう。

【テキスト】 寺田和夫編『人類学』（東京大学出版会）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03241 03242	社会学B	選	1～4	各2	後期	阪 本 俊 生
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 近代化と社会学理論

【講義内容】 近代化と社会の変容という観点から社会学の諸理論を見てゆく。このことを通じて、社会学がもっているさまざまな問題意識を近代化との関連で概観してゆく。

【講義計画】 講義する具体的な内容はほぼ次の通り。ただし、順不同。
 社会学的問題意識の誕生について
 自殺と社会：デュルケムの『自殺論』
 近代化と社会の可視化の試み
 社会学の実証主義
 宗教と近代化：ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』にみる近代の物語
 ナチズム：フロムの『自由からの逃走』が見ようとした近代化とナチズムとの関連
 権威主義的パーソナリティー
 個人主義と私秘化：エリアスの諸著作から私秘化と個人主義批判
 他者志向型：リースマンの『孤独な群衆』とセネットによるその批判
 ポストモダン社会における社会関係とナルシズムの問題
 近代化と欲望：ジュラルの『欲望の現象学』にみる近代人の欲望と人間関係
 近代化と嫉妬、羨望と鎮静問題
 近代社会と経済：K. ポランニーとデュビュイとデュムシユルの経済人類学
 都市と社会：ジンメルからゴフマン、ロフランドに至るミクロ都市社会学と近代化の問題

【評価方法】 学期末に記述式の試験を行なう。

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03251 03252	社会学A	選	1～4	各2	前期	森 下 伸 也
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【副 題】 人間的主体性の社会学

【講義内容】 近代化と社会の変容という観点から社会学の諸理論を見てゆく。このことを通じて、社会学がもっているさまざまな問題意識を近代化との関連で概観してゆく。

【講義計画】 「個人主義」「潜在的機能」「笑いとユーモア」という三つのテーマを通して、人間の自律性について考える。

【評価方法】 筆記試験を学期末におこない、その得点によって成績を評価する。

【テキスト】 森下・宮本・君塚『パラドックスの社会学』（新曜社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03261	経済学	選	1～4	2	後期	大谷津晴夫
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 経済学の基礎を築いている基本的な考え方を具体的問題に触れながら講義する。

- 【講義計画】
1. 市場の成立
 2. 交換と市場
 3. 貨幣の機能
 4. 需要と供給
 5. 資源配分と所得の問題
 6. 市場の失敗と政府の役割
 7. 国民所得の諸概念
 8. 国民所得の決定と雇用
 9. 経済問題各論

【評価方法】 定期試験の成績にしたがって評価する。

【テキスト】 岩田規久男『経済学を学ぶ』（ちくま新書、1994）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03271	数学A	選	1～4	2	前期	春 藤 修 二
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「数とは何か」

【講義内容】 諸君は高校までに実に多くの数学的知識を学んでいる。しかしたとえば有理数とはどのような数であるか適確に答えられない人が多い（考えてみて下さい）。よく知っている対象（数・図形）を用いて、それらについて“考える”ことを講義の目標としたい。従って数学の好き嫌い、予備知識などは全く問わないので、これ迄受けてきた数学教育のまとめとして受講を勧めたい。但し考えることを忘れないでほしいと思います。

【講義計画】 上記の目標に向けて、次の項目に従って授業を進める。

- I. 数について
 - ①数のイメージ
 - ②数体系の拡大
 - ③有理数・実数
 - ④数とは何か——ツェノンのパラドックスをめぐる
- II. 図形について——ユークリッド「原論」第一巻をたどる。
- III. 現代数学の観学から

特に前半部分は経済学部、経営学部で必修数学科目を履修する諸君にも有用と思われる。数学が嫌いな諸君は併行して履修することが望ましいと担当者は考えます。

【評価方法】

- ・定期試験を行う。
- ・広い意味での数学書を一冊読み、感想をレポートとして提出することを恒例としてきました。本年度も続けたいと考えています。

【テキスト】 特になし

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03281	数学B	選	1～4	2	後期	春 藤 修 二
他の科目との関連	数学Aを履修していることが望ましいが必須ではない			他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 「数学とは何か」

【講義内容】 「数学A」では数学が担う対象として数と図形を取り上げた。本講では数学の営みを、大まかに数学史の流れを追う中で考える。今日の数学教育がよってきた由来についてもふれたい。

【講義計画】 数学の歴史の中で最も大きな転回点となったと思われる次の3項目をたどる。
 I. ギリシャ数学——紀元前3世紀を中心に
 II. 微分積分学の誕生——17・18世紀の数学
 III. 現代数学の成立——集合論と現代数学
 最後に数学と数学教育について議論したいと思います。
 ・数学的知識は全く前提としていません。しかし全くのお話に終わらぬよう具体的問題を取り入れる工夫はしたいと考えています。
 ・情報管理学科生で将来「数学」の教員免許状を取得希望する諸君には履修を勧めます。

【評価方法】 基本的には定期試験の結果による。

【テキスト】 特になし

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03291	物理学A	選	1～4	2	前期	柏 村 昌 平
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 光と粒子の世界の物理学

【講義内容】 光（可視光）の光線、光速、干渉と回折などの現象の説明から、電磁波の性質や粒子性まで説明する。次に、物体の運動に関する多くの法則の中の基本的な考えと法則を説明する。

【講義計画】 ほぼ次ぎのテーマの順に講義する。
 光の物理学の授業内容
 1)光線の性質と法則 2)光の速さ 3)光の波動性 4)光の干渉と回折 5)光の粒子性と二重性
 6)相対性原理
 粒子の物理学の授業内容
 1)力と力のモーメント 2)運動と運動量 3)放物体の運動 4)仕事とエネルギー 5)ばねの運動
 6)惑星の運動 7)電磁場と電子の運動 8)剛体の運動 9)電子の波動性と二重性
 板書とともに、演示実験を交えながら説明する。高校でいどの数学も用いることもあるが、難しい計算を主目的とするものではない。

【評価方法】 筆記試験（主）とリアクションペーパー（副）

【テキスト】 配布プリントと板書。参考書は随時指示。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03301	物理学B	選	1～4	2	後期	柏 村 昌 平
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 電磁気現象と物質の性質の物理学

【講義内容】 静電誘導と磁石を例に静電磁気現象を、LCR回路を例に電流や電磁誘導現象を、最後に電磁波までの電磁場を説明する。
次ぎに、熱現象から始めて、物質の構造、原子の内部の構造、分子の性質、原子核と放射線（放射能）、原子核反応（原子力）など目に見えない世界の物理現象を説明する。

【講義計画】 ほぼ次ぎのテーマの順に講義する。
電磁気の物理学の授業内容
1)静電気現象と電荷 2)磁石と磁場 3)電流と回路 4)電流と磁場と電場 5)電磁波とはなにか
物質の性質の物理学
1)温度と相変化 2)熱と仕事 3)エネルギー問題とはなにか 4)原子の内部 5)光の放出や吸収
6)化学変化と分子 7)放射線とはなにか 8)原子核反応と原子力
板書とともに、演示実験を交えながら説明する。高校ていどの数学も用いることもあるが、難しい計算を主目的とするものではない。

【評価方法】 筆記試験（主）とリアクションペーパー（副）

【テキスト】 配布プリントと板書。参考書は随時指示。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03311 03312	生命自然史	選	1～4	各2	前期 後期	江 田 信 豊
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 40億年の昔、私たちの地球に生命が誕生しました。地球が金星や火星とは違う運命をたどろうとしていた時期です。そこに誕生した最初の生命体とはどのようなものであったのでしょうか。近年オーストラリアやアメリカを中心として30億年以上昔の生物化石についての研究が進んでおり、生命誕生のシナリオが説き明かされようとしています。また、20億年前には地球上にはじめて性（オス・メス）の区別のある生物が出現しました。

一方脊椎動物6億年の歴史にもいろいろな新事実が明らかにされてきています。最初の魚類はどのような形態をしていたのでしょうか？魚類から両生類への進化により動物は陸上へと進出しました。魚類から両生類への陸上への進出、つまり海から陸への生活圏の拡大は同時に乾燥への適応の挑戦の歴史でもありました。その後動物たちは乾燥した陸上のありとあらゆる場所で生活できるように進化しました（適応放散）。この急激な繁栄の後、恐竜たちは6500万年前に突然姿を消しました。このような問題に近年大胆な仮説が立てられてきています。人類は恐竜のように絶滅してしまうのでしょうか？人類はいったいどんな動物なのでしょう。恐竜の繁栄と絶滅のシナリオから人類のたどってきた進化の道筋とこれからが浮き彫りになります。

【講義計画】 1. 導入
生命の起源
2. 太陽系の惑星地球の起源
3. 地球の大気と海洋の起源
アミノ酸からタンパク質→RNAからDNAへ
4. 地球の大気と海洋の起源
ラン藻類の出現からもたらした地球環境への影響
5. 性の出現と有性生殖の意義
6. 魚類の出現とその進化
7. 海から陸への進出
8. ジュラシックワールド
恐竜の作り方教えます！
9. 恐竜の絶滅
10. 哺乳類の進化
11. 人類の人類たるゆえん
12. オスとメスの生活戦略

【評価方法】 レポート

【テキスト】 中村 運『水の生物学』（培風館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03321 03322	生命科学	選	1～4	各2	前期 後期	江 本 純
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】

皆さんは“ジュラシック・パーク”という映画をご存知でしょう。化石の中から遺伝子を取り出して、生きた恐竜を復元する。“生命をつくるなどとてもない”と思っていたあなたは、この映画をみて、“こんな手があったのか”と、その意外さと巧妙さに魅了されたと同時に、空恐ろしさを感じたことでしょう。

まずは“ジュラシック・パーク”の一部をみながら、“生命の作り方”を学びましょう。もちろん生物をつくりだすなど、夢のまた夢ですし、やってはいけないこと(?)なのかもしれませんが、この“生命の作り方”は現実味をおびてまいります。その秘密は、今はやりのDNAつまり遺伝子にあります。

遺伝子とは、細胞を構成するさまざまなタンパク質をつくるための設計図です。私たち人間をつくる設計図も、もちろん遺伝子DNAからできています。この人間の設計図を広げますと、約2mくらいになるそうです。大腸菌の設計図はほんの数mmです。大腸菌よりも人間の方がはるかに複雑にできていますから、これは当然なのでしょう。ところが人間よりもちょっぴり単純なカエルの設計図は、なんと20mを超えます。カエルが人間よりも10倍も複雑であるとはとても考えられません。でも設計図の大きさは10倍なのです。いったいどうなっているのでしょうか。遺伝子はたしかに設計図ではありますが、まだわからないこともいっぱいあるのです。最近の生物学の急速な発展から、どうやら遺伝子DNAは私たちの寿命や老化、そしてガンにも関係しているらしいのです。

この授業では、遺伝子もっている謎の部分の解きあかしながら、遺伝子がどのようなもので、また人間社会がこの遺伝子をどのように利用しようとしているのかを学んでいきます。文化系の皆さんは“遺伝子などは理科系の問題”と考えてはいませんか。今や遺伝子は社会・文化の問題となりはじめています。皆さんが社会で働いていく上で、この知識はきっと役に立ちます。是非とも履修しましょう。

【講義計画】

1. 授業内容の紹介
生命科学の裏舞台、ひろがるバイオテクノロジー産業
2. タンパク質をつくる装置：細胞
生命の作り方：ジュラシック・パークとその原理（ビデオ40分）
3. タンパク質合成系と遺伝子
4. エイズ（AIDS）とエイズ・ウイルス（HIV）
奇妙なウイルス“レトロウイルス”
ウイルスは生命か？ ウィルスとバクテリア
5. ヒトゲノム計画（ビデオ40分）
6. 遺伝子という資源：身近なバイオテクノロジー（ビデオ30分）
バクテリアって何だ。下水管の中は原始地球
7. “遺伝子考古学？”：遺伝子にきざまれた歴史
遺伝子も進化する。いえ、遺伝子が進化するのです。
病気の多くは遺伝子が原因、近未来の薬は遺伝子
プライバシーとしての遺伝子
9. 寿命・老化、そしてガン
細胞は死なない。でも細胞は自殺する。
10. ゾウリムシに性はあるの？ えっ！8つも、男と女と…？
遺伝子修復と細胞分裂、若返りと性
生物はなぜ死ぬの？
11. 生物の体に潜む生物：さまざまな共生生物
12. ミクロの生活圏と地球環境：共生生態系の構造

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

中原英臣・佐川 峻著『DNAの陰謀』（太陽企画出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03331 } 03333 03341 } 03343	基礎生物学セミナーA・B (実験を含む)	選	1～4	各4	前期 後期	江 本 純 江 田 信 豊
他の科目 との関連				他学科 履 修	重 複 履 修	不可

【講義内容】 この授業は、他の文化系の大学にはほとんどない理科実験をふんだんに取り入れたプログラムです。毎回の実験をマニュアルに沿って勉強していくことで皆さんが苦手と感じている生物学の基本知識が自然と身につくように構成されています。細胞の染色体や減数分裂、動植物の体のしくみ、また電子顕微鏡（知らない人も多いと思いますが、南山大学には電子顕微鏡があります。）の世界などを一度自分で見てみたいと思っている人は是非とも受講して下さい。実験は多少とも時間がかかりますが、生命の神秘を楽しく勉強してみましょう。基礎生物学セミナーA、Bはそれぞれ単独に履修することもできます。

基礎生物学セミナーAは細胞に焦点をあて、生命の最も基本的な活動である原形質流動、細胞分裂、受精、発生を実際に観察します。この実験観察では細胞代謝、生命の条件、世代交代、遺伝子、共生、形態形成、細胞分化という基本的な現象を学び、生命の生と死が生命40億年の歴史の産物であることを知るでしょう。

基礎生物学セミナーBでは固体の体のメカニズムをマクロそしてミクロの世界としてとらえます。また、色素分析なども行います。無脊椎動物や脊椎動物の解剖の観察実験では実際にモンシロチョウやウシガエルを材料にして自ら解剖を行い動物のしくみを理解できます。特に電子顕微鏡での観察では全受講生に操作を行ってもらいますので、たぶんあなたの生涯で超ミクロの世界を覗くただ一度のチャンスになるでしょう。

皆さんの世紀“21世紀”はバイオの時代でもあります。“バイオ”は私たちの生活・文化・精神を今まさに大きく変えようとしています。文化系の皆さんにとっても今までは“生物学”という遠い世界だったものが“バイオ”となっておしよせています。これから皆さんにバイオテクノロジーの基礎知識は大変重要なものとなるでしょう。

【講義計画】 基礎生物学セミナーA

1. 実験における諸注意、顕微鏡の操作、スケッチの方法
2. 細胞と原形質流動：タマネギの表皮細胞
3. 植物組織：ムクゲの2年茎断面
4. 体細胞分裂と減数分裂
5. 細胞分裂の起源と意味
6. 体細胞分裂：タマネギの根端細胞
7. 減数分裂：バッタの精巣
8. 染色体：ユスリカ幼虫の唾腺
9. 生物の世代交代と性
10. 原生動物：シロアリの腸内共生微生物
11. 発生と形態形成：ウニの卵発生
12. 多細胞動物の細胞分化：ヒドラ

基礎生物学セミナーB

1. 実験における諸注意、実体顕微鏡の操作、スケッチの方法
2. 実体顕微鏡の操作：花の解剖
3. 植物の色素分析：ペーパークロマトグラフィーによる色素類の分離（シロツメクサ）
4. 電子顕微鏡：デモ、試料作成
5. 電子顕微鏡：操作と写真撮影（花粉と毛髪）
6. 電子顕微鏡のしくみ
7. 無脊椎動物と脊椎動物
8. 無脊椎動物の解剖：モンシロチョウの外部形態
9. 無脊椎動物の解剖：モンシロチョウの内部形態
10. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの内部形態
11. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの筋肉系
12. 脊椎動物の解剖：ウシガエルの骨格系

【評価方法】 レポート：毎回の実験をマニュアルにそっておこなっていくと自動的にできあがります。試験はありません（A・B共通）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03351 03352	化学	選	1～4	各2	前期 後期	山 本 正 康
他の科目 との関連				他学科 履 修	重 複 履 修	不可

【副 題】 我々の生活に関係する化学物質について ―くすり・ビタミン・食品添加物など―

【講義内容】 現代の我々の身のまわりは、いろいろな化学物質であふれている。地球上の全ての物質は科学的に表現できるが、人工的な化学合成品という意味で考えても、我々の衣食住の全てにわたって人工的なものが入っている。
この講義では、特に身近な元素や化学物質、次に医薬品、ホルモン、ビタミン、および食品添加物などを講義する。
まず、生命に必要な酸素や金属をはじめとした化学物質、次いで医薬品について、その開発の歴史、種類、体の中での役割、最近の発展などの他いろいろの問題点について概説する。そして、特になじみの深い抗生物質、睡眠薬、鎮痛剤、麻薬、覚醒剤およびホルモン剤などについて副作用なども含めて述べる。
くすりと関係が深く、健康を保つためには無くてはならないビタミンについても発見の歴史、種類および役割について解説する。
ついで、最近の食品ではほとんどのものに含まれている食品添加物について、その種類、用途および問題点について講述する。

【講義計画】 まず、3回程度化学物質について概論を述べる。つづいて、くすりについてをホルモンを含めて6回ほど解説する。次に、ビタミンについて2回、食品添加物について2回およびその他の物質1回、という予定で行う。

【評価方法】 主として筆記試験で評価する。出席も加味する。

【テキスト】 特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03361	心理学A	選	1～4	2	前期	泉 ひ さ
他の科目 との関連				他学科 履 修	重 複 履 修	不可

【講義内容】 心理学の基礎知識として心理学の定義、歴史、学習目標、研究方法、研究領域について解説し、更に人間の精神機能の基礎となる感覚と知覚及び知的面に関係のある学習、記憶、知能等の内容を説明すると共に、各心理現象の発達的特徴についても言及する。

【講義計画】 上述の内容について主として講義形式をとるが、内容によってはVTRや実験を施行する。

【評価方法】 学期末テスト、レポート、出席状況等から総合的に評価する。

【テキスト】 泉 ひさ著『心理学入門：発達を中心として』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03371	心理学B	選	1～4	2	後期	泉 ひ さ
他の科目 との関連				他学科 履 修	重 複 履 修	不可

【講義内容】 人間の行動の原動力として考えられる欲求と感情、そして行動の多様性の基礎になる性格について解説すると共に、青年が体験する適応の諸問題（大学生活、就職、性と性差、恋愛と結婚）について実態調査にもとづいて解説する。

【講義計画】 上述の内容について主として講義形式をとるが、内容によってはVTRや実験を施行する。

【評価方法】 学期末テスト、レポート、出席状況等から総合的に評価する。

【テキスト】 泉 ひさ著『心理学入門：発達を中心として』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03381	科学技術論A	選	1～4	2	前期	小 林 博 司
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 文明の中の科学

【講義内容】 科学技術による知は、環境汚染・自然破壊などの問題に典型的に現れているように現在さまざまに深刻な問題を引き起こしている。しかしながら同時に現代人が科学技術からさまざまな恩恵をこうむっているのも事実であり、単純に「原始自然に帰れ」といった論議ができないことも確かである。
現在の科学技術は、19世紀のヨーロッパに成立したものが、日本を始め世界各地に伝わったものであり、その性格はヨーロッパの近代文明と、その中でもキリスト教と密接な関連を持っている。そのような歴史的・文化的な背景のもとでの科学技術についての理解を目指す。

【講義計画】 科学も技術も、それを広義に理解すれば非常に古い歴史を持っている。しかし今日の科学技術は19世紀に成立したものであり、極端な言い方をすればそれよりも前には「科学者」は存在していなかった。講義では、ヨーロッパにおける科学技術の成立について説明し、それを幕末から明治期以降の日本がどの様に受容したかを比較文化的な観点から説明する。

そして、科学技術の一つの典型とする「文明」の普遍性について、キリスト教との関係、文化多元主義、文化相対主義の問題との関連から検討を加え、多元主義と寛容の問題、それと結び付けて世界における日本文化の性格について考えたい。

【評価方法】 定期試験（筆答）による。

【テキスト】 村上陽一郎『文明の中の科学』（青土社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03382	科学技術論A	選	1～4	2	前期	横 山 輝 雄
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 文明の中の科学

【講義内容】 科学技術による知は、環境汚染・自然破壊などの問題に典型的に現れているように現在さまざまに深刻な問題を引き起こしている。しかしながら同時に現代人が科学技術からさまざまな恩恵をこうむっているのも事実であり、単純に「原始自然に帰れ」といった論議ができないことも確かである。
現在の科学技術は、19世紀のヨーロッパに成立したものが、日本を始め世界各地に伝わったものであり、その性格はヨーロッパの近代文明と、その中でもキリスト教と密接な関連を持っている。そのような歴史的・文化的な背景のもとでの科学技術についての理解を目指す。

【講義計画】 科学も技術も、それを広義に理解すれば非常に古い歴史を持っている。しかし今日の科学技術は19世紀に成立したものであり、極端な言い方をすればそれよりも前には「科学者」は存在していなかった。講義では、ヨーロッパにおける科学技術の成立について説明し、それを幕末から明治期以降の日本がどの様に受容したかを比較文化的な観点から説明する。

そして、科学技術の一つの典型とする「文明」の普遍性について、キリスト教との関係、文化多元主義、文化相対主義の問題との関連から検討を加え、多元主義と寛容の問題、それと結び付けて世界における日本文化の性格について考えたい。

【評価方法】 主として定期試験（筆答）による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03391 03392	科学技術論B	選	1～4	各2	後期	小 林 傳 司
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 社会現象としての科学

【講義内容】 近代科学は、現代社会に非常に大きな影響を与えており、それが多くの人々の関心を引いてきた。しかし科学の活動がどのようなものであるかについての一般人のイメージは、必ずしも現実を正しく反映しているとはいえず、多くの虚像が含まれている。特定の分野の業績やの分野の個別的な知識ではなく、科学全体にわたる一般的な主題・問題点を取り上げて、科学ならびに科学と社会との関係についての全体的展望を得ることを目標とする。

【講義計画】 はじめに、科学がどのようなプロセスを経て発展していくかを説明する。科学の知識は固定したものではなく、たえず拡張や修正が行われている。とりわけ17世紀に成立したといわれる近代科学の性格、科学技術と軍事との関わりに見られるような社会との関係の中でそれを明らかにする。

次に、科学者集団の内部構造について、職業科学者の実際のあり方と一般人の持つ理想化されたイメージのずれを明らかにすることを通して説明する。

そして以上の検討をもとにして、社会の中の専門家としての科学者に対して、一般人はどの様に対応すべきかという観点から、権威の問題、研究の方向付けや規制の問題などについて論じる。

【評価方法】 定期試験（筆答）による。

【テキスト】 パーンズ『社会現象としての科学』（吉岡書店）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03401 03402	地球科学A	選	1～4	各2	前期	濱 健 夫
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 海洋システムと地球環境

【講義内容】 水惑星「地球」はその70％が海洋におおわれている。この海洋は、地球環境の維持に対して大きな役割を持つ。それは、海洋を満たしている水の特性によるものが大きい。また、地球温暖化に関連して問題となっている大気中の二酸化炭素の増加に関しても、海洋は人為起源の二酸化炭素の約半分を吸収することで、地球温暖化の速度を遅らせていると考えられている。

本講義では、この海洋を中心に、海洋を物理、化学、生物学的側面から概説するとともに、近年の地球環境の諸問題と海洋との関わりについても触れる。

【講義計画】

- ・海洋の物理・化学的側面
- ・海洋における物質循環
- ・地球環境の諸問題と海洋を中心に、講義を進める予定

【評価方法】 講義内容に関する試験

【テキスト】 特定のものは使用せず、資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03411 03412	地球科学B	選	1～4	各2	後期	玉 川 一 郎
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【副 題】 地球の気象気候システム

【講義内容】 雨が降ったり、風が吹いたりする身近な気象現象から、地球全体の気温やその上昇（温暖化）までの、気象・気候現象は、基本的に、太陽からの放射エネルギーにより、駆動されるエンジンとして理解できる。

ここでは、そのエンジンである大気——陸（海）のシステムでのエネルギーの流れと、それに密接に関わる水の流れを中心にシステムの全体をざっと眺めたい。

【講義計画】 おおまかな導入の後、大気の大循環、高低気圧、雲と降水、地表面、植生、局地循環などの現象を概観し、天気予報や気候のシミュレーション、気候変動や温暖化に触れる予定である。講義は配布する資料を中心に行ない、OHPなどを使用する。

【評価方法】 レポートと試験の成績

【テキスト】 特定のものは使用せず、配布資料を使用する。参考書は適宜紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03421	総合 A（男性と女性）	選	1～4	2	前期	小 林 傳 司 他
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 男性と女性

授業予定表（前期毎週木 5・6 時限）

月 日	担 当 者	題 目
4 月 11 日	小 林 傳 司	科学技術における男性と女性
18 日		
25 日		
5 月 2 日	伊 藤 美 奈 子	臨床心理学における「男性的なるもの」と「女性的なるもの」
9 日		
16 日		
23 日	藤 本 哲 史	企業組織における男性と女性
30 日		
6 月 6 日		
13 日	唐 津 博	法における男性と女性
20 日		
27 日		
7 月 4 日	予 備 日	

【講義内容】 「科学技術における男性と女性」 小林傳司
科学技術と言うと「理系」、「理系」というと「男子中心」というイメージが湧くかもしれない。確かに科学者として名を残しているのはほとんど男性である。ここには何があるのだろうか。単なる性差別だろうか、それとも科学技術という学問は特に男性向きにできているのだろうか。講義では科学技術という制度が男性を中心として組織されているという事実を踏まえ、「科学技術の論理には確かに性があるのか」という問いを考えてみたい。

「臨床心理学における「男性的なるもの」と「女性的なるもの」」 伊藤美奈子
臨床心理学の領域では“男性的なるもの”と“女性的なるもの”は、どのようにとらえられてきたのであろうか？ ユング派理論に基づき以下のテーマについて論じてみたい。

1. ユング心理学にみる男性と女性（アニマとアニムス）
2. アモールとプシケーの物語にみる女性の誕生
3. こころの発達にみる“男性的なるもの”と“女性的なるもの”の本源的違い
4. 永遠の少年・永遠の少女

参考文献：E. ノイマン『女性の深層』（紀伊國屋書店）
河合隼雄他編『ユング心理学 男性と女性』（新曜社）
河合隼雄『ユング心理学入門』（培風館）

〔企業組織における男性と女性〕 藤本哲史

企業組織において、なぜ男性と女性異なる職場や仕事に配置されるのか、またそのような職場における性分離は従業員にどのような影響を及ぼすのかを考察する。まず男性と女性がいかに違う仕事をしているかを身近な例や外国のケースから考えてみる。次に性分離が起こる原因の説明を(1)雇用者による差別、(2)政府の女性保護策、(3)男性従業員の行為、(4)女性従業員の選択、という四つの異なる視点から試みる。そして最後に、性分離が昇進や賃金にどのような男女格差を生むかを考える。

〔法における男性と女性〕 唐津 博

憲法14条は、性別により政治的、経済的又は社会的関係において差別されない（法の下での平等）をうたっている。しかし、日本の法律学は「法男性学」なのであり、女性の視点から法律学を再検討すべきである、との立場から「法女性学」が提唱されている。

そこで、このような主張をふまえて、とくに家庭生活（婚姻、離婚など）及び職業生活（雇用、労働条件など）に係る法的ルールを取りあげ、多面的な検討を加えてみたい。

参考文献：山下泰子・戒能民江・神尾真知子・植野妙美子『法女性学への招待』（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03511 03522 03533	スポーツ実技（サッカー）		2～4	各1	前期	中 村 哲 夫
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】

サッカーはもっともポピュラーなスポーツとして世界的に親しまれており、現在では女性がサッカーをすることも珍しくなくなっている。

サッカーのコースでは、基本的な技術や戦術を習得し、またサッカーに関する知識（ルール、審判法等）を理解しながら、より高度なゲームができるようになることを願っている。球技という特性から、技術の習得段階を考慮し、「小さなスペース、単純なルール」に基づくゲームから、「大きなスペース、複雑なルール」によるゲームへと、ゲームを創っていく過程を大切にしたい。

この過程で、個人および集団としてスポーツ（サッカー）に関わっていく方法を学び、体力や健康への認識を高め、生涯にわたってスポーツ（サッカー）に親しめる態度を養うことをめざしている。

【講義計画】

- ・第1週 ガイダンス（授業計画、諸注意等）
ウォーミング・アップやストレッチングの方法
基本的なボールコントロール（ボールタッチ、ボールキープ、ドリブル等）
- ・第2～4週 基本的な技術の習得（各種キック、トラップ、フェイント等）
ミニゲーム（1／4コート）
- ・第5～7週 基本的技術・戦術の習得（パス、シュート、攻撃および防御の方法等）
ミニゲーム（1／2コート）
- ・第8～14週 実践的な技術・戦術の習得（様々な制限を付けたパスやシュート、実践的な攻撃および防御の方法、セットプレー等）
ゲーム（全面）

※定員は上限45名とする（男子のみ）。履修者が少ない場合には閉講することもある。

第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】

実技であるので、主体的に授業に参加することが大切であるため、出席を重視する。技術の向上や態度等も勘案し、総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しないが、雨天時を利用して、ルールや戦術等の理解を深めるために、VTRや資料等を利用する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03512 03523	スポーツ実技（ゴルフ）		2～4	各1	前期	岩 見 恒 典
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 15世紀にイギリスで誕生したゴルフは、その長い歴史の中で、マナーとルールを遵守するという精神に支えられて、紳士のスポーツとして発達してきた。日本に伝えられたのは明治34年であるが、昭和の半ばまでは限られた人のスポーツでしかなかった。最近は大衆化・一般化の傾向がみられ、プレー人口は潜在的な数を含めると、2千万人以上ともいわれている。近隣の大学でも授業として開講しているところが多く、生涯スポーツとして継続しうる可能性もあり、授業ではスポーツとしてゴルフをとらえ、必要な知識と正しいスイング、そしてルールやマナーなども学習し、各自が目標を設定し、自らの課題に積極的に取り組む態度を養うよう実施したい。

【講義計画】 (1)フォームとスイングの習得
基礎的技術……………（グリップ）（アドレス）（ボディターン）など
VTRによるスイングフォームのチェック
基本的なルールの理解とマナーの習得
(2)打球練習（スポンジボール）
アプローチショット……………スイングの大きさと方向・距離の感覚
ミドルアイアンのフルショット……………スイングフォームの練習
(3)打球練習場での最後のチェック
＊用具及び実習場所について
ゴルフクラブ、ボール、マットなどは用意するが、グローブは各自で準備。
学内施設（グラウンドまたは野球練習場）で実施するが、学外の施設を利用することも考えている。
（費用は各自で負担）
※定員は上限30名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。
第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席（8割に満たない場合は不合格）を重視し、学習態度を加味して評価する。

【テキスト】 使用しない。必要に応じて資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03513 03520 03527 03531	スポーツ実技（硬式テニス）		2～4	各1	前期 後期	寺 田 邦 昭 渡 辺 俊 彦 脇 田 裕 久
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 心身の健康を保ち、より良く生きる術としてのスポーツの有用性は、今更述べるまでもありません。しかし、テニスなどの様に相手との戦いの形式をとる競技スポーツ種目では、ある程度の技能無くしては気軽にスポーツ仲間に加わり難い面があります。この講座では、毎週、身体に適切な運動刺激を与えて健康な汗を流す中で、テニスを生涯の友として楽しむに足る、基礎的な技能を身につけることを目指します。また、練習過程及びゲームの実践を通して瞬発力や持久力、敏捷性、さらにはスポーツマンシップやパートナーシップなど、テニスを生涯スポーツとして実施していく際に要求される運動能力向上や、諸々の行動様式を学びます。受講者の技能レベルには、当然、初級から上級まで差がありますが、ここではそれぞれの受講者の持つスキルに応じた学習を行います。従って、履修にあたっては技能レベルは問いません。

【講義計画】 受講者の技能レベルに応じ、以下に掲げる項目の一部または全部について、ボールのスピードやループ等、難易度を変えて学習します。
ラケットティング
ボレー
フォアハンド・ボレー バックハンド・ボレー トラップボレー アングル・ボレー
ドロップ・ボレー
グラウンド・ストローク
フォアハンド・ストローク バックハンド・ストローク ロブ アプローチ・ショット

ドロップ・ショット
サービス
フラット・サービス スライス・サービス スピン・サービス
レシーブ
フラット・スライス・スピンスラブ・レシーブ ファースト・スローサー・レシーブ
スマッシュ
スマッシュ グランド・スマッシュ
シングルスゲーム
サービスコート・シングルス ハーフコート・シングルス フルコート・シングルス
ダブルスゲーム
雁行陣 平行陣

※定員は上限45名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。

第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席状況、技能の進捗程度、課題への取り組み方などを総合的に判断し評価します。

【テキスト】 テキストは使用しないが、必要な資料はプリントで配布します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03514 03528 03537	スポーツ実技（バレーボール）		2～4	各1	前期 後期	三 浦 修 史
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 今日の日本は、今までの高度経済成長に助けられ、我々の生活にもゆとりができました。しかし、その経済発展につれてマスメディア産業の労働が、人間の健康を脅かすようになっています。このような時代には、人間が人間らしく生きるためスポーツを日常生活の中に取り入れる必要があります。そこで注目されるスポーツが、1895年にウィリアム・G・モルガン氏によって考案されたバレーボールです。

バレーボールは誰でも簡単に、安全に楽しめる手軽さが認められ、日本においては、学校スポーツとして早くから取り入れられ、体育の教材や課外スポーツとして盛んに行われています。今日の人間疎外になりがちな社会において一つのボールを囲む人の輪が心の輪を作りだす、そんな楽しさが受け入れられたのでしょう。

このバレーボールのコースは、多くの友人と出会い、共にバレーボールの技術を高めながら、チームの中でお互いが助け合い、勝ち負けを追求することによって、協調性、リーダーシップを養うことを目標に開講されます。

【講義計画】 多くの学生諸君は、今までにバレーボールを経験してきていることと思います。この授業では分習ではなく、全習を取り入れて授業を進めていきます。

・第1～4週 今までの基礎技術（パス、レシーブ、サーブ）を復習しながらも、出来るだけゲームを取り入れて授業を進めていきます。

・第5～10週 アタック等攻撃面の練習をします。

・第11～14週 試合を中心にして作戦を勉強します。

※定員は上限45名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。

第1週集合場所については、体育センター東入口前の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を最も重視すると共に、毎週の授業への参加度、用具の設定・管理への積極的な参加等を加味して評価を行います。

【テキスト】 必要な資料はこちらから提供します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03515 03524 03536	スポーツ実技（バドミントン）		2～4	各1	前期 後期	松 岡 敏 恵 榎 本 鐘 司
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 若者が、心身の健康を維持し、活力に溢れた生活を送るためには、心拍数130前後の運動を、一週当たり三時間程度実施することが望ましいとされています。どんな方法によってそれを実現するかは個人の自由ですが、バドミントンはそんな時、多くの人に利用されているスポーツ種目の一つです。バドミントンはテニス、卓球などと比較してラリーの続きやすい種目で、それだけに、初心者には取り付きやすい種目と言えます。

しかし、競技となると話は別で、球種も多く、動きの激しい奥行き深い種目で、そんな所が、バドミントンが生涯スポーツとして初心者から熟練者まで、幅広く愛好されている所以でもあります。スポーツは公開の場で、仲間と協力しながら、相手と競い合うという形式をとるだけに、その実践に際しては諸々の行動様式が要求されます。

この講座では、個人、団体に与えられた様々な課題に協力して取り組む中で、体力・運動能力を高め、スポーツを愛好する者としての資質の向上を目指します。尚、受講者の技能レベルは問いません。

【講義計画】 受講者の技能レベルに応じ、以下に掲げる項目の一部または全部について、難易度を変えて学習します。

ラケットイング

ストローク

オーバーヘッド・ストローク

サイドアーム・ストローク（フォアハンド バックハンド）

アンダーハンド・ストローク（フォアハンド バックハンド）

ラウンドザヘッド・ストローク

ハイ・バックハンド・ストローク

フライト

クリヤー（ハイ・クリヤー ドリブン・クリヤー）

ドライブ

スマッシュ（ジャンプ・スマッシュ）

ドロップ・ショット

ネット・フライト（ヘアピン・ショット クロス・ショット）

サーブ（ショート・ロー ロング・ハイ ドリブン）

ゲーム

シングルス・ゲーム（ハーフコート フルコート）

ダブルス・ゲーム（トップ&バック サイド・バイ・サイド ダイアゴナル）

※定員は上限45名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。

第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席状況、技能の進捗程度、課題への取り組み方などを総合的に判断し評価します。

【テキスト】 テキストは使用しませんが、必要な資料はプリントとして配布します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03516	スポーツ実技（フィットネス）		2～4	1	後期	三 浦 修 史
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 一般的には、20代頃の体重が現在のベスト・ウエイトです。しかし、大学を卒業し、就職した後もこの基準に合うような人はほとんどいないといっても良いでしょう。この原因は、ストレスが強く、時間の掛かる通勤、長時間の座り仕事の疲れを癒すために、喫煙、飲酒、食料料が増加することです。すなわち、摂取カロリーと燃焼カロリー量にアンバランスがしょうじるからです。このようなストレスがもたらす身体への影響に対処する最良の方法は、身体を動かすこと、すなわち運動（フィットネス）です。フィットネスは、外観も、気分も良くします。しかし、それよりも重要な効果は、より長く、より健康で、より幸福な人生を過ごす助けになることなのです。

このコースでは、体型がくずれたその時になって困らないように正しいフィットネス・プログラムの作り方を学び、修得することを目的としています。また、現在、体力不足、肥満で悩んでいる学生も歓迎します。

【講義計画】 ・第1～3週 現在のフィットネスレベルを評価する方法を学ぶとともに、正しいウォーミングアップ、クールダウンの方法を学ぶ。

・第4～8週 個人に合ったエアロビック・トレーニング、レジスタンス・トレーニングのプログラムを作成する。

・第9～13週 作成したプログラムに従ってトレーニングを行う。

・第14週 再度、フィットネスレベルを評価して、トレーニング効果を確認する。

※定員は上限30名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。

第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を重視し、授業への参加態度を加味して総合的に評価する。

【テキスト】 テキストは使用しないが、随時資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03517 03521 03532	スポーツ実技（卓球）		2～4	各1	前期 後期	榎 本 鐘 司 脇 田 裕 久
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 卓球は、老若男女をとわず、家族や友人といった単位で、もっとも気軽にできるスポーツのひとつでしょう。中高年の女性グループをつくって楽しむといったことも行われており、生涯スポーツとしての取組みも盛んです。こういった生涯スポーツとして卓球に取り組んでいこうとするときに、安全に対する知識を十分に持ち合わせ、マナーや社会的ルールを守って、グループの一員としての役割を積極的に果たす、そしてこれらのことが自然にできるといったことが、本当に大切ではないでしょうか。

この卓球のコースでは、ある程度のスピードでラリーをし、回転の変化に対応する技術を学び、これらの技術を駆使して、シングルスゲームとダブルスゲームを正規のルールの運用のもとで楽しむことを内容とします。したがって、技術のレベルでは、初心者から中級者を対象とします。けれども上級者であっても、その技能の高さを発揮して、指導法、コミュニケーション、リーダーシップなどの実習の場となりますので、受講の条件としてこれら技能のレベルは問わないことにします。

【講義計画】

- ・第1～2週 ガイダンスプログラム、受講者のコミュニケーション、安全知識
- ・第3～4週 フォアハンド、バックハンドの基本打法、ショート、ロングの打法
- ・第5～6週 簡易ゲーム（シングルス）

以上は一斉指導形態で実施、以下はグループ学習形態を中心に実施

- ・第7～8週 回転の理論と実際
- ・第9～11週 応用練習、ダブルス練習・ゲーム
- ・第12～14週 チーム対抗のゲーム

※定員は上限50名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。第1週集合場所については、体育センター東入口前の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を重視し、技能的な進歩度と授業への参加度によって総合的に評価する。授業のレポートを求めることもあるが、もちろんこれも評価の対象となる。

【テキスト】 テキストは使用しないが、必要な資料は配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03518 03525 03529	スポーツ実技（バスケットボール）		2～4	各1	前期 後期	中 路 恭 平 松 岡 敏 恵
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 バスケットボールは、1992年のバルセロナオリンピックにおけるアメリカのドリームチームの影響により一躍人気を得たが、もともと世界的に競技人口が非常に多く、我が国でも小学校から体育の教材に取り入れられていることは周知の通りである。従って、ほとんどの者がバスケットボールのルールについてある程度の理解を得、基礎的な技術についても身につけていると思われる。そこで、このコースではさらに個人技能、集団技能を高め、作戦などを工夫した上で、ゲームを楽しんだり、自己の集団内での役割を果たすことに重きを置きたい。その意味で、特にクラブ経験者など上級者には、グループの組織化、コミュニケーションになどの面においてリーダーシップの発揮を期待する。

なお、バスケットボールは正規の5対5のゲームだけでなく、1個のボールと1基のゴールがあれば、1対1や3対3など、人数によっていろんな楽しみ方ができるスポーツである。授業では、そうした特性をふまえ、各種の練習・ゲームを取り入れていくつもりである。

【講義計画】

- ・第1週 オリエンテーション、ボールコントロール、試しのゲーム

- ・第2週 グループ分け、ピボットとフェイク、シュートの基本、1対1
 - ・第3～6週 マンツーマンディフェンスとスクリーンプレイ、3ON3ゲーム
 - ・第7～9週 ゾーンディフェンス、速攻、5対5リーグ戦
 - ・第10～14週 ポジションの検討、フォーメーションプレイの研究、5対5リーグ戦
- ※定員は上限45名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。第1週集合場所については、体育センター東入口前の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を重視する。技能評価は適宜行いが、技能の向上度と学習への取り組み方、ルールや種目特性に対する理解度なども評価に組み入れる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03519 03530	スポーツ実技（エアロビクス）		2～4	各1	前期	小 沢 教 子
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 自分のからだを自分の思いのままに、自由に且つ大胆に動かすことが出来、リズムに乗ってエネルギーギッシュに踊ることが出来たら、こんなにすばらしいことはありません。そのうえ、心臓や肺の働き、すなわち、循環器系機能が向上し、動脈硬化の予防が出来、心身ともにリフレッシュ出来るとなれば一石二鳥の喜びが得られます。また、エアロビクスは特別な用具を必要とせず、だれにでも簡単に楽しめる運動です。

この講座では、アップテンポな音楽に乗せて、ダンスの要素を多く取り入れ、初めての人から経験者まで楽しめるプログラムを用意しています。

【講義計画】

- ・第1～2週 授業概要、有酸素運動と心拍数
からだのコンディショニングづくり
ウォームアップ・クーリングダウンのマニュアル化、コミュニケーションなど
- ・第2～4週 基本的動作（個々の動き、ステップ等）
- ・第5～6週 動きのコンビネーションとその調和
- ・第7～8週 音楽（リズム・テンポ）と動きの調和
- ・第9～10週 小作品を含めたエクササイズ
- ・第11～12週 グループによる作品づくり
- ・第13週 作品発表会
- ・第14週 エアロビクス・作品の集大成

※定員は上限35名とする（女子のみ）。履修者が少ない場合には閉講することもある。
第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を重視し、授業への参加態度（参加意欲）及び作品の完成度・熟練度等を総合的に評価します。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03526 03535	スポーツ実技（スケート）		2～4	各1	後期	小 沢 教 子
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 スケートは子供から大人まで幅広い年齢層で気軽に楽しめるスポーツであり、屋内リンクの普及によりシーズンを問わずいつでも出来るようになりました。もちろん、大自然の中で風を切ってスピードによって滑る爽快感は格別です。このような爽快感を味わえるには基本的な技術を必要とします。この講座では初心者から上級者までを3グループに分けて指導し、安全で楽しいスケートを学んでいただきます。

【講義計画】 初級、中級、上級に分けて実施する

- ・第1週 ガイダンス、スケート及び安全に関する知識、技能別グループ分け
- ・第2～3週 基本動作（歩行・滑走法）…重心の位置、重心移動、停止法（ハ・イの字）
- ・第4～5週 リズミカルなストローク、両足カーブ
後進歩行・滑走法・停止法（T字）

- ・第6～7週 クロッシング走法、後進片足走法
前半のまとめ（個人練習）
持久走（安全・確実なストローク）
- ・第9～10週 片足滑走・クロス走法・停止法等の完成、方向変換（ターン）
- ・第11週 テストの課題練習
- ・第12週 実技テスト
- ・第13週 総まとめ（水上レクリエーション）

※定員は上限45名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。

第1週集合場所については、体育センター東入口の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を重視し、技術的な進歩の度合いと授業への参加態度によって総合的に評価します。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03534	スポーツ実技（フライングディスク）		2～4	1	前期	中 路 恭 平
他の科目との関連				他学科履修		重 複 履 修

【講義内容】 フライングディスクは1940年代初頭に、米国アイビー・リーグの名門校エール大学の学生達が「フリスビー・ペーカリー」というパイの店のパイ皿を投げ合って遊んでいたことからヒントを得て、建築検査官フレッド・モリソンがプラスチック・ディスクを作ったのが起源である。一般には遊具としてのフリスビーとして親しまれてきたが、その独特の飛行特性を活かしてさまざまな競技種目が考察されており、「フリスビー」が登録商標であることから1985年に「フライングディスク」と改称され、近年では若者をはじめ、子供から高齢者まで楽しめるスポーツとして、世界的に広まってきている。フライングディスクは遠投距離を競うディスタンス、コントロールの正確性を競うアキュラシー、ゴルフのように決められた位置からバスケット型のゴールに投げ込むまでの投数を競うディスクゴルフなどの個人競技から、相手チームから投げ込まれたディスクを片手でキャッチしあうガッツ、バスケットボールとアメリカンフットボールのルールをミックスさせたようなアルティメットなどの集団競技まで10種目の公式競技がある。このコースでは、クラス全体の技能の向上やコミュニケーションの深まりにあわせて、これらの中から数種目を選び出し、練習とゲームを展開していくつもりである。

【講義計画】

- ・第1～2週 オリエンテーション、10種目紹介
基本のスロー（バックハンド・スロー、サイドアーム・スロー）とキャッチ
- ・第3～5週 ストレート、カーブの使い分け
スローのコントロール（アキュラシー）、遠投（ディスタンス）
- ・第6～8週 遠投力とコントロール力の応用（ディスクゴルフ）
- ・第9～10週 アルティメット：ランニングパス、ピボットとフェイク
ルールの理解、ミニゲーム
- ・第11～13週 アルティメット：リードパス、オフenseとディフェンス
リーグ戦
- ・第14週 テスト：ディスタンス、アキュラシー、セルフコートフライト

※定員は上限45名とする。履修者が少ない場合には閉講することもある。
第1週集合場所については、体育センター東入口前の掲示板の指示に従うこと。

【評価方法】 出席を重視する。技能評価は適宜行いが、技能の向上度と学習への取り組み方、ルールや種目特性に対する理解度なども評価に組み入れる。

【テキスト】 必要に応じてビデオ、配付資料を活用する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03538	スポーツ実技（登山キャンピング）		2～4	1	夏期集中	中 路 恭 平 榎 本 鐘 司
他の科目との関連				他学科履修		重 複 履 修

【講義内容】

われわれは普段町に住み、便利な機械文明に囲まれて暮らしている。そうした都会生活を抜け出し、大自然の中に入っていくと、それまで忘れていたものが見えてくることがある。自然のすばらしさ、自然の偉大さ、そして他の動物と同じように人間ものその自然の一部であること、などなど。大自然の懷に抱かれて生活をしてみると、時間は意外にゆっくり流れていることに気づくだろう。その時間の中で、新しい自分を発見するかもしれない。このコースでは、大自然が教科書である。テントでの共同生活を通して、教室でもまた体育館やグラウンドでも得られない何かを、各自が見いだしてくれるものと確信する。

本年度は、北アルプスの代表的な山である立山の雷鳥沢にキャンプを張り、そこをベースに周辺の連峰を歩く。初心者向けのコースを設定しているので、特別な技術も体力もいらない。キャンプに必要なテントやシュラフ、コンロなども用意されているが、雨具とトレッキングシューズだけは各自で用意されたい。定員は30名であるが、万が一登録者多数の際は抽選をする場合もある。

なお、このコースには実習費として23,000円が必要である。また、集中授業であるので、授業日程に注意されたい。

【講義計画】

4月13日(土) 午後1時～2時30分 オリエンテーション(体育センター視聴覚室T203)
7月27日(土) 午後1時～4時10分 テント設営、装備点検、糧食計画
7月28日(日) 午後1時～3時 パッキング
7月29日(月)～8月1日(木) 登山キャンピング
8月2日(金) 午前10時～12時 装備返却

【評価方法】

現地での安全で快適な実習のためには、最低限のキャンピング技術を身につけることが必要である。このため、学内での事前実習が設けられている。この学内実習への出席を最も重視する。また、自然を大切にす態度、安全に対する配慮など、野外生活の意義に対する理解度を評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03539	スポーツ実技(スキー)		2～4	1	冬期 集中	中路 恭平 他
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】

わが国のスキー人口は一千数百万人といわれ、シーズンともなると山は若者や家族連れで賑わい、今や生涯スポーツの主要種目となっている。折しも1998年には長野県で冬期オリンピックが開催されることとなり、スキー場へのアクセスが便利になり、RVも好調な売れ行きを示している。ゲレンデでは、高速リフトが年々増設され、スキーヤーの運搬能力が従来と比べて飛躍的に向上してきている。これらのことが意味するところは、ゲレンデの混雑化であり、スキーヤー同士の衝突事故やそれに伴う訴訟問題が急増している。近年のスノーボードブームもこれに拍車をかけている。考えて見れば、時速数十キロで滑降するスキーヤーに免許制限はなく、ブレーキのかけ方やハンドルの操作を知らない車が横行しているようなものである。本コースでは「安全で楽しいスキー」をモットーに、正しい制動やゲレンデでのマナー、事故の回避方法などを徹底した上で、個人のレベルに応じた班編成による指導を行う。また、ゲレンデでの実習だけでは不十分であるので、VTRによるイメージトレーニングやスキーの力学に関する講義も取り入れる予定である。

定員は45名であるが、登録者多数の際は4月20日のオリエンテーションにおいて抽選を行う。なお、このコースには実習費として40,000円(交通費、宿泊費、食費、テキスト代を含む。ただしリフト代、貸しスキー第等は含まず)が必要である。このうち申込金として5,000円をオリエンテーション時に徴収する。この申込金は、個人的都合により履修取り消しをした場合には返却できないことがあるので、登録に際しては熟慮されたい。

【講義計画】

4月20日(土) 午後1時～2時30分 オリエンテーション(体育センター視聴覚室T205)
1月11日(土) 午後1時～2時30分 事前ガイダンス(体育センター視聴覚室T205)
2月17日(日)～21日 現地実習(長野県戸狩温泉スキー場)

【評価方法】

学外で合宿生活を伴う授業であるから、団体行動を乱したり他人に迷惑をかけぬよう、大学生として節度ある振る舞いを求める。技能の到達度も評価に入れるが、安全に対する理解度やマナー、学習態度等を総合的に評価する。

【テキスト】

大学スキー研究会編『SKI TEXT』(杏林書院)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03582 03584	スポーツ科学論	選	1～4	各2	前期 後期	寺 田 邦 昭
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【副 題】 スポーツと人間

【講義内容】 たかがスポーツと言われます。されどスポーツは、人と共に歩んで来た長い道程の中で、私たちに様々な影響を与えてきました。とりわけ、スポーツが大衆化した現代では、わたしたちの日常生活に深く関わりを持つに至りました本講では、それらスポーツと人間との関係について、人文・社会及び自然科学的視点から解説を加えたいと思っています。

【講義計画】 第Ⅰ週～第Ⅴ週（人文科学的アプローチ）
Ⅰ．スポーツとは（プロ野球はスポーツと言えるか）
Ⅱ．スポーツの発祥（原始・古代スポーツを振り返る）
Ⅲ．近代スポーツ誕生（中世～近代のスポーツ事情）
Ⅳ．スポーツと国民性（日・英・米の比較する）
Ⅴ．近代オリンピック（誕生からの100年を辿る）
第Ⅵ週～第Ⅸ週（社会科学的アプローチ）
Ⅵ．アマチュアリズムの推移（発生から崩壊まで）
Ⅶ．スポーツと政治（国威発揚など政治的利用）
Ⅷ．冠大会の抱える諸問題（商業化の実態と功罪）
Ⅸ．スポーツマンシップの危機（勝利第一主義の行方）
第Ⅹ週～第Ⅺ週（自然科学的アプローチ）
Ⅹ．スポーツと運動神経（運動音痴は存在するか？）
Ⅺ．トレーナビリティー（駄馬は鞭打てども駄馬か）
Ⅻ．スポーツと健康（省力化社会を生き抜くために）
Ⅼ．スポーツと障害（過ぎたるは……）
Ⅽ．スポーツとあがり（あがりとその防止法）

【評価方法】 筆記試験により評価します。

【テキスト】 授業用資料はプリントして配布します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03583	スポーツ科学論	選	1～4	2	前期	中 路 恭 平
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 人々の運動やスポーツの行い方は、その時代における社会的な背景と大いに関係があるといえる。本講義では、人類がこれまでどのように運動やスポーツと関わってきたか、古代から中世、近代へと歴史的に概観し、その上で現代社会における運動・スポーツが持つ意味や問題点などを探り、その生活化の方策を検討する。また、現代社会においては、社会的・環境的制約から、我々はとかく運動不足に陥りがちである。この運動不足、そして栄養過多やストレスは、現代人の健康を阻害する三大要因といわれている。後半では、身体運動と健康・体力とのつながりについて、特に呼吸循環機能、筋機能に視点を置き、運動が人体に及ぼす効果について探るとともに、適切な運動の行い方を検討する。

【講義計画】 主な内容は次の通りである
1．スポーツとは何か
2．スポーツの歴史
3．イギリススポーツとアメリカスポーツの文化比較
4．アマチュアリズムとその変遷
5．スポーツの高度化と経済化
6．生涯スポーツの時代
7．運動と健康・体力
8．運動と栄養・エネルギー

9. 運動と身体機能（呼吸循環機能）
10. 運動と身体機能（筋機能）
11. トレーニング・運動処方

【評価方法】 期末試験の結果のほか、授業中のミニレポートを加味する。

【テキスト】 テキストは使用せず、講義資料を配布する。また、参考文献は講義内で紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03591	健康科学論	選	1～4	2	前期	岩 見 恒 典
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 人間がその生涯の各年齢段階において、活力に満ちた明るく心豊かな生活を実現できることは、生きがいのある人生を送るうえでの基盤であり、健康の保持増進やスポーツの実践が深く関連していることは誰もが認めることであろう。われわれが健康であるという実感を持って生活できるのは、その人が必要とする生活を満足に行い得ているということであろう。人間の生活は、時代・地域・性・年齢・職業などによって異なり、それぞれに応じた健康に対する考え方があることはいうまでもない。健康で豊かな社会生活を営むためには、個々人が健康や体力に関する知識を深め、自己の健康や体力の状態を知り、生涯を通して実践することが大切である。今年度の講義は、「健康」という漠然とした概念を少しでも整理することになればと、個人の問題としての健康と、集団としての問題について整理する予定である。

【講義計画】 前半は個人の問題としての視点から、「健康の概念・定義・健康指標」「身体的健康・精神的健康・社会的健康」「共通認識としての健康観とその変遷」などについて整理し、後半は、国民生活基礎調査や国勢調査などの統計資料を活用して、「集団の健康指標」「疾病・死亡の状況と変遷」「人口問題」などに対する国際比較を含め、集団としての健康問題について考えることにしたい

【評価方法】 講義口程の3分の2以上の出席者に対し、期末試験の結果と授業中に実施するミニテストやレポートの成績を加えて評価する。

【テキスト】 使用しない。必要に応じて資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03592	健康科学論	選	1～4	2	前期	三 浦 修 史
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【副 題】 現代人の健康維持にはたす身体運動の役割

【講義内容】 今日、家庭・学校・職場の環境は厳しさを増し、多くの人々が外界からストレスにさらされている。その結果、多くの半健康状態の人が存在するといわれている。そこで本講義は、変動する現代社会がもたらすストレスとそれに反応する現代人の諸問題について具体的に考えるとともに、ストレスマネジメントにはたす身体運動の効果についても学習する。

【講義計画】 最初に、我々を取りまく環境に存在するリスクファクターを理解し、その中から今後特に注目しなければならない心理的因子について、いろいろな方面から講義を進めていく。特に、職場や家庭、学校において、今日、問題となっている事件との関連について話を進めていきたい。後半は、身近に見られるストレスの中から、我々に最も関連する薬物について具体的な例を示し理解を深める。

【評価方法】 毎週、小レポートを提出する。

【テキスト】 担当者が資料を提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03611	スポーツ科学演習Ⅰ（基礎身体運動学）	選	1～4	2	前期	三 浦 修 史
他の科目との関連				他学科履修		重 複 履 修

【副 題】 基礎身体運動学（身体の動きを科学する）

【講義内容】 ほとんどのスポーツの演技は自分の身体を動かすか、あるいは外部の物体に運動を与えるかによってそれが成立している。したがって、動きは、全てのスポーツ技術にとって基本的なものといえる。そして、これらの動きも基本的科学的法則や原理に支配されていることにスポーツの経験者なら気がつくことであろう。授業では、これらの動きの基本法則や原理を学ぶと同時に、高速ビデオ動作解析装置を使用して実験実習を行う。

【講義計画】 担当者が用意する資料にもとづいて、最初に、身体運動の原点である、運動器官（筋、骨）について学ぶとともに、運動する場合に、人体に見られる、力学的な作用を知る。次に、毎秒200コマ以上の速度で撮影できるビデオ装置の取り扱い方を習得し、担当者が提示したテーマにもとづき撮影を行う。この記録された動作を1/1000秒単位の動きとして解析できるように、コンピューターの操作をみにつける。そして、解析したデータを提出できるようにまとめていく。

【評価方法】 担当者が指示した身体動作を高速ビデオでとらえ、コンピューターによって解析した結果を提出する。

【テキスト】 担当者が資料を提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03612	スポーツ科学演習Ⅰ	選	1～4	2	前期	榎 本 鐘 司
他の科目との関連				他学科履修		重 複 履 修

【副 題】 スポーツにおける日本的

【講義内容】 スポーツには、さまざまな文化要素が複合的にからみあっています。この授業では日本の武道をとりあげて、文化要素がどのようにからみあっているかを、実技をまじえて、考えて行きたいと希望します。実技としては剣道を取りあげます。
なお、クラスの人数は上限40名までとします。

【講義計画】

1. 武道の歴史概略
2. 「気」論と武道
3. 「道」と武道
- 4～9. 剣道実技
防具、竹刀などの用具について
「正座・黙想」「そんきょ」「掛け声」等の意味と機能
「演ずること」から「競うこと」へ
「一本（有効打突）」の概念形成と日本文化について考える。 etc.
10. 現代武道と古武道の異同（講義）
11. 「演ずること」と「競うこと」の再検討（講義）
12. スポーツにおける日本的
（武道の構造から武道の歴史を再構成して考える。）

【評価方法】 出席を重視し、レポートによって評価する。

【テキスト】 参考書はつぎのとおり

1. 武道編『先生なぜですか』（大修館書店）
2. スポーツ文化論シリーズ6『スポーツコミュニケーション論』（創文企画）
3. エドワード・ホール『かくれた次元』（みすず書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03621	スポーツ科学演習Ⅱ（応用身体運動学）	選	1～4	2	後期	三 浦 修 史
他の科目との関連				他学科履修	重複履修	不可

【副 題】 応用身体運動学（選手のためにスポーツを科学する）

【講義内容】 スポーツ演技の多くは、単に身体や身体各部分が運動するという以上のものを含んでいる。たとえば、ボール、バット、ラケット、クラブなどの用具を操作するという場合、単に機械的動きというものではない。それらの用具をどのように操作するかということが結果に影響をおよぼすのである。授業では、個人が興味を持つスポーツ技術を対象に合理的な動きとはどのようなものかを究明する。よって、スポーツ活動を行っている学生の受講を希望する。ただし、身体運動学、基礎身体運動学の履修を終えた者にかぎる。

【講義計画】 基礎身体運動学ですでに習得した。高速ビデオ撮影技術と動作解析装置の操作技術を最大限に生かして、学生個人が積極的に実験に取り組むことを目標とした授業で、最初に、実験計画を提出してもらう。この計画をもとに、研究をすすめ、結果を図表にまとめ、それについてのレポートを作成する。

【評価方法】 最初に作成した計画にしたがって、率先して研究に取り組み、分析した結果をレポートにして提出する。

【テキスト】 担当者が資料を提供する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
03801 ～ 03810	情報リテラシー	選	1～4	各2	前期 後期	村 本 正 生 山 田 進
他の科目との関連	特になし			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 世の中、まさにマルチメディア時代である。すばらしい能力を持ったパーソナルコンピュータを各人が所有できる時代である。このコンピュータの持つ能力を我々自身の力とし、それを土台として人間の創造性を高めようというのがコンピュタリテラシーの基本であろう。

この授業では、コンピュータに関する基礎技術を学習する。基礎技術であるので身につくまで反復練習が必要である。授業ではその手ほどきするだけであり、身につくかどうかはあなたの方の意欲と熱意である。情報システムの最も基本的な概念の理解と基礎的なコンピュータ操作法の習得を目指す。

【講義計画】 コンピュータ操作を中心に、基本的情報システム概念の説明を織り混ぜて12回の授業を行う。

- ・コンピュータの出来ることとその仕組み
- ・パソコンの機能説明とオペレーティングシステムの役割（ハードウェアとソフトウェア）
- ・文書処理（ワープロ）：データ入力、日本語変換、文書編集と印刷
- ・データベース：データの蓄積と検索照会・表示、図書検索システム（GEMMA 2）
- ・マルチメディアとコンピュータネットワーク：パソコン通信、インターネット通信
- ・表計算とグラフ化
- ・情報セキュリティと情報倫理

【評価方法】 各テーマ毎に課題を出し、結果を提出してもらい評価する。日頃の出欠や理解度を勘案して評価する。

【テキスト】 使用ソフトウェアの操作手引書は教室に用意する。また必要に応じて補助資料を各人に配布する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
03931 ～ 03936	体育実技Ⅱ（再）	必	3・4	2/3	前期 後期	岩見恒典 寺田邦昭 三浦修 榎本鏡 恭平 他
他の科目 との関連				他学科 履修		重複 履修 不可

【講義内容】 体育実技Ⅱとして開講される各種スポーツは運動技術学習、生涯スポーツ、健康・フィットネス等などの主たるねらいを持っています。前期に登録した者は前期の、後期に登録した者は後期のそれぞれ当該曜日、時限の第一回目の授業においてガイダンスと種目選択を行いますので、必ず出席してください。

開講されるスポーツ種目は、スポーツ実技の開講種目と時間割を参照していただきたし、必ずしも第一希望が履修できるとはかぎりませんので留意してください。

要医療者のためのコースは別に設けられます。第一回のガイダンスの際に申し出てください。

第一回授業の集合場所については、体育センター東入口前の掲示板によって指示されます。

全 学 共 通 科 目

G. 外国語科目

H. 日本語科目・
日本事情に関する科目

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04001 } 04153	英語Ⅰ・Ⅱ総合		1	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 These two courses provide the new incoming students with an introduction to communication in English in all four skills: listening, speaking, reading, and writing. The emphasis in the course is on real communication: actually using English in the classroom to accomplish various tasks and assignments. The goal of instruction is to provide the students with an opportunity to develop proficiency in English and to provide instruction in the study skills necessary to enable the students to continue their own study outside of the classroom on an individual basis.

【講義計画】 Various materials and methods will be employed for the purpose of helping the students develop the confidence necessary to actually use the English proficiency they have acquired. Class schedules and activities differ with the interests and abilities of each section, and each instructor will provide an explanation of the individual syllabus at the beginning of each semester.

【評価方法】 Evaluation will be based upon the student's performance in the tasks assigned. Each instructor will provide an explanation of the evaluation scale for the class at the beginning of the each semester.

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04161 } 04276	英語Ⅲ・Ⅳ総合		2	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 These two courses provide the students with an advanced course in English communication. The courses are designed to help the students develop proficiency in each of the four language skills: listening, speaking, reading and writing. The course builds on the foundation provided by Integrated English I & II and attempts to bring the students to a proficiency level sufficient for them to take advantage of the many opportunities for going abroad, for both pleasure and study.

【講義計画】 Various materials and methods will be employed for the purpose of helping the students develop the confidence necessary to actually use the English proficiency they have acquired. Class schedules and activities will differ with the interests and abilities of each section, and each instructor will provide an explanation of the individual syllabus at the beginning of each semester.

【評価方法】 Evaluation will be based upon the student's performance in the tasks assigned. Each instructor will provide an explanation of the evaluation scale for the class at the beginning of the each semester.

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04301 } 04348 04361 } 04418 04431 } 04436	英語 I・IIリーディング		1・2	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 パラグラフ全体の内容把握ができるようになることを目標とする。英語の一文、一文を日本語に翻訳するのではなく、直読直解をするようにする。適宜、速読用のサイド・リーダーや、語彙を増やす訓練を課す。

【講義計画】 毎回予習してくることが期待されている。

【評価方法】 期末試験のほか、小テスト、クラスでの参加度などで総合的に評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04351 } 04354 04421 } 04424	英語 I・IIリーディング (英米科用)	必	1	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 Students will be introduced to reading strategies intended to improve reading comprehension and the variation of a wide variety of international native level texts in English. The reading materials will also help prepare them for texts and tasks they may encounter in English-speaking environments. Vocabulary acquisition skills will be reviewed, and by the end of the course the students should be able to read a wide range of texts with a reduced dependence on a dictionary, and a significantly improved rate and level of comprehension.

【講義計画】 The SRA reading methodology will be used to improve the reading strategy of the learners so that they may develop and notice a real improvement in their reading skills. A placement test will assess each student's particular reading level and will be used to indicate how this level may be improved. The course will also serve as a preparation for the more advanced academic reading demands of Reading III and IV.

【評価方法】 The final grade will be based on a continuous assessment of the student's work and effort in class and the grades achieved on assignments and tests throughout the course.

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04451 ） 04562	英語Ⅲ・Ⅳリーディング		2	各1	前期 後期	
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 高度な英文のパラグラフ全体の内容把握ができるようになることを目標とする。英語の一文、一文を日本語に翻訳するのではなく、直読直解をするようにする。適宜、速読用のサイド・リーダー、語彙を増やす訓練を課す。

【講義計画】 毎回予習してくることが期待されている。

【評価方法】 期末試験のほか、小テスト、クラスでの参加度など総合的に評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04601 04611	英作文Ⅰ a・Ⅱ a（英文科生用）	必	1	各1	前期 後期	鈴木孝夫
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 時事英語をモデルとして簡潔・明晰な短文を書く練習を主とするが、リスニング・語法の養成も行う。

【講義計画】 中心となる英作文は、コンピューターを活用して多様な解法を効率的に画面に提示し、生きた英語の実態と可能性を探る。さらに、Creative Writing への導入として、paragraph 構成を重視した自由英作文の練習も行う。

【評価方法】 定期試験と自由英作文の成績を半々とし、授業における貢献度をそれに加味する。

【テキスト】 長江芳夫・近藤摂子、*How to Express Current Topics in English*（英潮社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04602 04612	英作文Ⅰ b・Ⅱ b（英文科生用）	必	1	各1	前期 後期	日野水憲
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 Express Yourself in English: From Passive to Active English Usage

【講義内容】 After a short introduction to English Word Processing, we will proceed to writing sentences of various lengths and styles, using both Japanese to English translation and topic writing exercises. The concept of the Topic Sentence, Topic/Comment, and Paragraph will be used for a logical progression of ideas. The final object of the course is to write an essay of five to ten pages on a topic to be decided during the course of the year.

【講義計画】 First two-three classes: Introduction to Word Processing; thereafter, various exercises in writing English: First Semester the emphasis is on sentence structure, using short sentences; Second Semester the emphasis will be on Paragraphs and its structure and use. You will be expected to have a good command of English word processing by the end of the first month of classes.

【評価方法】 Class participation (10%), snap quizzes (10%), oral presentation (10%), semester

finals (30%), and final five-ten page essay (40%).

【テキスト】 undecided as of Oct. 19, 1995.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04603 04613	英作文 I c ・ II c (英文科生用)	必	1	各1	前 期 後 期	山 崎 勉
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 文章構成法、基本的な語・句の使用法を習得してもらうための練習を行う。

【講義計画】 ①毎回、ひとつないしふたつの異なった表現を使って、応用練習をしてもらう。
②グループ毎に物語を執筆してもらう。共通の話題についての報告文を作成してもらうこともある。
以上のような内容の授業になろう。

【評価方法】 筆記試験と平常点による総合的評価。

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04621 04624 04631 04635	Freshman English I ・ II (英文科生用)	必	1	各3	前 期 後 期	D. Mayer W. Purcell
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 In this course the students move from a passive knowledge of English vocabulary and grammar to active use of the language in speaking and hearing. Half of the class is devoted to activities which involve speaking; the other half of the class is spent in the Language Laboratory for activities which concentrate on listening. In addition there are four novels for extended reading and vocabulary building; twice-weekly letter writing to focus on grammar and vocabulary needed in the warm-up section of the class; printed impressions of the novels; in-class letter exchange and discussion via computer; and introduction to various self-help computer programs such as a vocabulary builder and a speed reader. Since the computer instructions are given in English, this period becomes a real-life situational use of English.

【講義計画】 The course meets three times a week. Once a week in the computer room; twice a week in a classroom with audio/visual equipment. There may be slight variations according to teachers. However, in general, once the textbook instruction starts, there is the following pattern.

1. Warm-up. As soon as students enter the room they speak in English about any topic of their choice.
2. Roll call. Checking whether the letters were written. A student leads a cheer or the teacher engages some students with a few remarks.
3. Work in pairs or in groups of three and four.
4. Game or some communicative activity related to the chapter.
5. Reflection.

【評価方法】 Although there is written work in the course, the examinations are oral. To pass the course a student must show a certain ability in the LL, be active in the class, and be able to carry on a conversation or to reply to questions given in English. To speak or

not to speak; to understand spoken English or not to understand. The course is basically pass/fail. However, extra credit is given for higher LL scores, evidence of trying, and volunteering to use English in a public situation.

【テキスト】 Three novels assigned from among the following and one novel of the student's own choice: *The Lion, The Witch, and the Wardrobe*, *The Human Comedy*, *The Old Man and the Sea*, *Nisei Daughter*, and *The Best Christmas Pageant Ever*.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04701 } 04704 04716 04721 } 04724 04736	英語 I・II オーラルコミュニケーション (英米科・日本語学科用)	必	1	各3	前期 後期	
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 The goals of OC-I/II are to activate knowledge through actual use, to stimulate healthy attitude towards English and study, to learn about learning, and to master language necessary for interpersonal interaction in a relaxed yet challenging environment.

【講義計画】 OC-I/II activities emphasize communication through interactive activities which students at different levels can adjust differently to and still profit from. There's a lot of pair work for soliciting personal information while activating language learned in secondary schools. Students work both with textbooks and materials distributed by the teacher, and with audio and video tapes in the classroom.

(LL) In each 90 minute OC-I/II class, 45 minutes will be spent in the language laboratory with the emphasis on various aspects of listening comprehension and pronunciation using commercially prepared listening and video courses as well as actual television broadcasts.

【評価方法】 Student's participation and preparation are evaluated informally in every class. Regular language laboratory tests and listening tests are given throughout the year. Individual instructors give tests based upon their texts, handouts, and activities. Students are given grades based upon the amount of work done and progress made. They are also asked to make self-evaluations and to give feedback on the course to the teachers. Homework and preparation are required for most classes and students can expect to spend about two hours outside of OC-I/II for homework per week.

Tests, homework and attendance in the LL are combined with results in OC-I/II to determine the course grade.

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04711 04712 04731 04732	英語 I・II オーラルコミュニケーション (イスペインヤ科用)	必	1	各3	前期 後期	
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 The goals of OC-I/II are to activate knowledge through actual use, to stimulate healthy attitude towards English and study, to learn about learning, and to master language necessary for interpersonal (one to one) interaction in a relaxed yet challenging environment.

【講義計画】 OC-I/II activities emphasize communication through interactive activities which students at different levels can adjust differently to and still profit from. There's a lot of pair work for soliciting personal information while activating language learned in secondary schools. Students work both with textbooks and materials distributed by the teacher, and with audio and video tapes in the classroom.

【評価方法】 Student's participation and preparation are evaluated informally in every class. Individual instructors give tests based upon their texts, handouts, and activities. Students are given grades based upon the amount of work done and steady progress made. They are also asked to make self-evaluations and to give feedback on the course to the teachers.

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04751 〵 04786	英語 I ・ II ライティング		1 ・ 2	各1	前 期 後 期	
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 効果的なパラグラフ(PARAGRAPH)を書くことを主たる目標とする。パラグラフは自分の考えや気持ちを表現するための最も基本的な単位である。PARAGRAPH WRITINGを習得することによって、ESSAY WRITINGにつなげたい。

【講義計画】 PARAGRAPHの概念(Central idea, Topic sentence, Supporting details等)と展開法(Details, Examples, Classification, Definition, Comparison/Contrast, Cause/Effect, Process, 等)を実例によって学び、それに基づいてPARAGRAPHを書く訓練をする。英語で表現するためには英語を読むことが重要であるから、かなりの量のリーディングが課されるであろう。またPARAGRAPHを構成する要素は文(SENTENCE)であるから、正確な文を書くために語法、イディオムの習得も要求されるであろう。

【評価方法】 課題、小テスト、期末試験、出席等を総合的に判断して評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04821 〵 04835	英語 I ・ II 音声表現		1	各1	前 期 後 期	
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 ビデオ、テープなどを多用して英語の音声表現の理解を深める。また、重要な表現を適切な状況で使用できるよう訓練する。

【講義計画】 LL教室を使用し、毎回多量の音声表現に触れる。課外に英米の映画を観たり、英語のテレビニュースを聴くなど、積極的に英語の音声表現になれ親しむことが期待されている。

【評価方法】 出席重視。(積極的なクラス参加を期待する。)

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04841 } 04858	英語 I・IIアドヴァンストリーディング		1	各1	前 期 後 期	
他の科目との関連	英語 I・IIリーディングを既修、又は履修中であることが望ましい。			他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 やや難しい英文のパラグラフ全体の内容把握ができるようになることを目標とする。英語の一文、一文を日本語に翻訳するのではなく、直読直解をするようにする。適宜、速読用のサイド・リーダーや、語彙を増やす訓練を課す。

【講義計画】 毎回予習してくることが期待されている。

【評価方法】 期末試験のほか、小テスト、クラスでの参加度など総合的に判断する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04861 } 04875	英語 I・II会話			2	前 期 後 期	
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 This course will concentrate on developing student's speaking and listening ability through the use of communicative activities. An important focus will be on vocabulary, especially words, phrases, and structures used to describe important thought, feelings, and events and experiences. Some classes will include discussion and/or problem solving activities. Students will be expected to work together in pairs or small groups.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04901 } 04903	英語 I (会話)	国: 必	1	各4	通 年	J. Mainland D. Rines M. Fenwick
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 These courses emphasize improving students' self-confidence, fluency, and accuracy in English speaking and listening skills. Activities may include pair and small group discussions, interviews, role plays, audiotape and video activities, and TOEFL review as needed. Topics tend to be more general, from daily life and the current news, for example. Homework is required.

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04911 } 04913	英語Ⅱ（会話）	国：必	2	各4	通 年	A. Lara-Peters J. Mainland P. Binford
他の科目 との関連					他学科 履 修	重 複 履 修

【講義内容】 These courses emphasize increasing students' speaking and listening skills when dealing with more advanced topics in daily life, the news, and business world. In addition to pair and group discussions, activities may include more formal work, such as speeches, presentations, debates, and activities to prepare students for study abroad in their Junior year, such as lecture notetaking skills. Audiotape and video activities may also be used. Homework is required.

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04921 04922	基礎英語	国：選・必	1	各4	通 年	P. LaForge P. Binford
他の科目 との関連					他学科 履 修	重 複 履 修

【副 題】 Basic English

【講義内容】 The purpose of this course is to practice the four basic English skills: Speaking, Listening, Reading, and Writing. English speaking will be practiced in pair, small, and large groups. Video and audio equipment will be used to help students improve listening skills. Reading and Writing skills will be cultivated through TOEFL preparation and class reports. Reflection on all these activities will lead to an improvement in basic English skills. Since a minimum of homework will be assigned, active participation in class activities is expected of all students.

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04931 } 04933	英会話 I	営: 選・必	1	各2	通 年	L. Woo P. Binford P. Wringer
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 [English Conversation 1]

These courses are for students who want to practice listening and speaking skills. Activities may include the following: group discussions of various topics, discussion of short reading passages or articles, interviews, role plays, impromptu speeches, short formal speeches, question and answer practice, listening to audio tapes, watching and responding to video tapes, oral practice drills, short written exercises, etc. Some homework is required.

[English Conversation 2]

See description for English Conversation 1

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
04941 } 04943	英会話 II	営: 選・必	2	各2	通 年	S. Ryan M. Fenwick L. Woo
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 [English Conversation 1]

These courses are for students who want to practice listening and speaking skills. Activities may include the following: group discussions of various topics, discussion of short reading passages or articles, interviews, role plays, impromptu speeches, short formal speeches, question and answer practice, listening to audio tapes, watching and responding to video tapes, oral practice drills, short written exercises, etc. Some homework is required.

[English Conversation 2]

See description for English Conversation 1

【講義計画】 The lesson plan will be explained at the beginning of the course.

【評価方法】 The method of evaluation differs with each teacher. The possibilities are as follows:

- Written Examination
- Oral Examination
- Oral Report(s)
- Written Report(s)
- The use of reference materials is possible.
- Audiovisual equipment for evaluation might be necessary
- Other methods of evaluation to be decided by each teacher

【テキスト】 The texts will be decided by each teacher

フランス語

フランス料理、フランス映画、フランス絵画、フランス文学、ファッション、シャンソンなどを通じて私たち日本人にも身近なフランス語は、フランス本国以外にカナダ、ベルギー、スイスほかアフリカ諸国など全部で三十数か国において用いられる有力な国際語の一つです。

フランス語を第一外国語として学ぶ場合は、おもに視聴覚教育方式により、フランス人と日本人の教師がタイアップして教え、ことばの生きた運用力（聴く、話す、読む、書くの四技能）を体系的に身につけることを目的としています。

第二外国語としてフランス語を選択する場合には、伝統文法の優れた分析的な方法を用いて、文献読解、情報収集、実務などにも役立つような語学力の習得を目指します。

具体的な到達目標としては、卒業後も①辞書があれば簡単なフランス文や手紙が読める、②フランス語会話の基礎が得られる、の二点を考えています。

外国語の勉強は、毎日が未知の世界の発見です。ことばを通して私たちは初めてその言葉を使う人々の生活や意見を知ることができます。「知る」ことによって自分の世界が広がっていく喜びを味わってみましょう。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05101 〵 05291	フランス語Ⅰ・Ⅱ		指定 なし	各1	前 期 後 期	栗 村 道 夫 他
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 初心者を対象に、週二回の授業で一年間フランス語を勉強する。到達目標は、「辞書があれば簡単なフランス語の文章が読めるようになる」ことである。

【講義計画】 一年間でおおよそのことを学習する。
①名詞の性と数②冠詞、③代名詞、④関係代名詞、⑤副詞（比較級、最上級）⑥形容詞（語尾変化・比較級、最上級）、⑦動詞（直接法・命令法・条件法・接続法及び時制）、⑧代名動詞、⑨受動態、⑩現在分詞とジェロンディフ

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05341 05351 05361 05371	フランス語Ⅴ～Ⅷ		指定 なし	各1	前 期 後 期	滝 沢 隆 幸
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 可

【講義内容】 アンドレ・モロワ「幸福論」を精読し、フランス語の読解力の向上をはかるとともに、幸福とは何かという根本的な問題について考えてみる。

原著は「感情と風習」と題するエッセーであるが、フランス文学のモラリストの伝統を受け継いだモロワは、結婚、家族、友情、社会等さまざまな人間生活を論じたあと最後に万人の関心の対象である幸福について、古今東西の考え方を紹介しながら明解に論じている。受講生諸君の興味を十分に満たしてくれるはずである。

【講義計画】 初級・中級文法を補いつつ、フランス文の構成に習熟させる。毎回予習は欠かせない。

【評価方法】 平常点と試験による。

【テキスト】 滝沢・金光・大野編『幸福論』（第三書店）¥567

ドイツ語

ドイツ語は英語と同じゲルマン語の仲間です。現在ではドイツ、オーストリア、スイスで日常に使用されています。わが国では特に教養外国語として重要視されてきた長い歴史があります。そのため従来の授業においては読解力の養成に主力を注ぐ傾向があったことは否定できません。

しかし今日のように国際社会の中での文化や産業の相互交流が盛んになってきた時代においては、ドイツ語の授業も単に読むばかりでなく、話す力、聞く力の養成にも力を入れなければならなくなってきました。

そのため、本学においては、ドイツ語をまずアクチュアルな外国語として学習できるように、視聴覚教育機器を利用した授業を主体とする方針を取っています。美しいドイツ民謡や歌曲、ビデオなども適宜利用して、できるだけ親しみやすくわかりやすい、楽しいドイツ語の時間にしたいと考えています。

第2外国語としてのドイツ語の時間は第1外国語としてのドイツ語の時間よりずっと少ないので、表現力より理解力の養成の方に重点を置かざるを得ませんが、1年間で基本文法はすべて習得できるようにしてあります。外国語、経済、経営、法学部の希望者には第2年次以降も学習できるようにドイツ語科目が開講されていますので、ぜひそれを利用してほしいと思います。

「外国語を知らない者は自分の国の言葉をも知らない。」とゲーテは言いました。古いゲルマン時代からの精神文化の蓄積の中で養われ発達してきたドイツ語との触れ合いを通して、諸君の日本語に対するセンスを磨かれることを期待しています。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05801 05811	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ文法（外・経・営・法）		2	各1	前期 後期	石 井 賢 治
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】（前期）初級文法を一通り終えたばかりの学習者を想定し、読み易く内容も楽しいものをテキストに選びました。各課のドイツ小話に関連した文法事項ならびに練習問題がそえられているので、これを初級文法の復習および中級文法へのステップとしたい。

（後期）ドイツ人の女性教師の一日を描いたテキストを用います。平易なドイツ語で書かれているので、そこに盛り込まれた日常生活に関する情報を引き出すことはそれほどむずかしくはないと思います。

【講義計画】（前期）1回の授業で1課ずつ進めていく予定です。

（後期）テキストは第1部が12課（各課は2ページ）から成り、第2部は何通かの手紙で構成されています。1回につき1課の速度で進んでいこうと思っています。文法説明はこの授業でもできるだけ行います。

【評価方法】 定期試験、出席、授業態度などから総合的に評価。

【テキスト】（前期）根本道也編『スーパー・ジョーク50——初級文法送総復習——』（国学社）
（後期）建入 子編『ヴァーグナー先生の日』（第三書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05802 05812	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ文法（文）		2	各1	前期 後期	生 野 芳 徳
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 1年で習得した文法知識とドイツ語の運用能力を、読解力の養成という点に重点をおいて、深化、拡大することを目指す。

【講義計画】 文法の知識の補充・拡大を行いながら、正しい発音、文の読み方を身に付けてもらうよう指導する。前期はまず、ドイツ前大統領Weizsäckerの演説をテープに聞きながら読み、その後、幾つかのショート・ストーリーを読みつつ、基礎的な能力をしっかりと養ってもらう。

後期は、主にエッセイを読むが、O.Fr.Bollnowの、生・時間・空間・言語などを論じた、内容的には余り専門的でなく、文章としては、ドイツ語のドイツ語らしい特徴（したがって慣れないと判りにくい）を含んだテキストを読む。

【評価方法】 学期末試験の他に、毎回短い書き取りと和文独訳を行う。定期試験、授業への参加度。

- 【テキスト】 前期：Weizsäcker：Die freiheitliche Demokratie bedarf der Verantwortung und Solidarität ihrer Bürger（白水社）
後期：Otto Bollnow：Die Ehrfurcht vor dem Leben（朝日出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05803 05813	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ文法（文）		2	各1	前期 後期	内 藤 克 彦
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【副 題】 ドイツ文法総まとめ

【講義内容】 初級文法を一通り学んだあとの中級的文法知識の総まとめと、その応用としての読解ならびに表現練習をする。

【講義計画】 学生の主体的学習を促進するため、予習を必須条件として、毎時間必ず一回はドイツ語による短文練習を全受講生が行う形で授業を進める。

【評価方法】 定期試験（筆答）のほか、適宜行う小テストによる成績によって評価する。出席を重視する。

【テキスト】 中島他著『ドイツ文法総まとめ』（白水社）
大谷著『ドイツ語読みかた教室』（三修社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05822 05832	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ講読（文）		2	各1	前期 後期	柴 田 庄 一
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 現代ドイツの生活事象に関するテキストを読みながら、東西両文化の相違や類似性についての知見を拡げる。併せて、中級レベルのドイツ文に習熟する演習を行なう。

【講義計画】 前期テキスト 福沢・五十嵐『それ行け明子——初級文法読本』（同学社）
後期テキスト 岩村偉史『文法読本——異文化としてのドイツ』（白水社）
を用い、前期は主として日常生活事象について、後期は様々な社会現象を中心に講読をすすめる。ほぼ1回に1章ぐらいずつのスピードを予定している。

【評価方法】 主として期末テストの成績に拠り、併せて平常点をも考慮する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
05823	ドイツ語Ⅲ講読（文）		2	1	前期	大 庭 正 春
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 この授業では、比較的読みやすく、しかも既に講読読本としては古典的な作品『アルト・ハイデルベルク物語』を使用し、1年次に学習した文法事項を復習しながらより高度な読解力の養成を目指す。

【講義計画】 週1回の授業で、2から3ページ進み、読解力の養成はもとより、美しい古城の町のハイデルベルクの描写、そしてその自然の中で階級の壁を乗り越えて育まれていく恋い物語と一緒に読んでいく。社会規範と自己の欲求とのほざまの中で、いかに自己に素直に生きようと努める人々の想いは、もう遠い「昔話」にすぎないのだろうか．．．。

【評価方法】 平常点と筆記試験

【テキスト】 和田陽一編『アルト・ハイデルベルク物語』（白水社）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
05833	ドイツ語Ⅳ講読（文）		2	1	後期	大庭正春
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 この授業では、ドイツ・スイス・オーストリア、いわゆるドイツ語圏の国々を多角的に紹介したテキスト『ドイツとドイツ語をはなす国々に』を使用し、高度な読解力の養成を目指す。

【講義計画】 一年生と二年生の前期までに学んだ語彙並びに文法事項を、必要に応じもう一度整理しながら、一回の授業で2から3ページ進み、高度な読解力の養成はもとより、「読解」を通じて異文化理解への一つのアプローチをする。

【評価方法】 平常点と筆記試験

【テキスト】 松本嘉久編『ドイツとドイツ語を話す国々に』（朝日出版社）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
05841 05851 05861 05871	ドイツ語Ⅴ～Ⅷ（旧上級ドイツ語B〔随〕）	選・随	3・4	各1	前期 後期	伊藤秋男
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 平易なテキストを用いて、速読力とドイツ語の語感が身につくように授業をすすめる。したがって文法には、あまりこだわらない。ドイツ語学習を1年終えただけでも十分習熟できる内容である。

【講義計画】 購読を中心に進めるので、予習を前提とした出席が望ましい。

【評価方法】 筆記または口頭試験の成績と平常の成果から総合的に評価する。

【テキスト】 Deutsche Kurzgeschichten, Aladdins Wunderlampe (K.Laßwitz)
Ausgewählte Märchen, Kurzgeschichten (M.L.Kaschnitz) など平易なテキストから1冊を選ぶ予定。

スペイン語

スペイン語は、ポルトガル語、フランス語、イタリア語、ルーマニア語と同じくラテン語から発達した言語です。

現在では、スペインはもとより、メキシコ、それにグアテマラからパナマに至る中米の国々、そしてコロンビア、ベネズエラ、アルゼンチン、チリに至る南米の国々で使用されています。中南米諸国との経済面での関係を一層深めていかなければならない日本の立場からすれば、これらの地域で使用されているスペイン語の理解は非常に大切だと言えるでしょう。

スペイン語は、発音が日本語とよく似ており、ローマ字読みするだけで結構相手に通じます。単語も基本1,000語でかなりの会話ができると言われており、語順なども日本語と同様に規則がゆるやかなため、我々日本人にとって最も親しみやすい外国語のひとつだと言えます。理解力は表現力の基礎となるので一年次では文法・講読を会話・作文より重視します。一年間みっちり勉強すれば中級程度の読みものならば辞書を片手に読めるだけの理解力、および現地での旅行がなんとかできるだけの表現力を身につけることが可能です。二年度以降も随意科目として講読や会話の勉強を続けることができます。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06001 06011	基礎スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（西）	必	1	各2	前期 後期	高 橋 覚 二
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語の平易な文章を正しく書き、正しく解釈できるだけの文法力をつけることを目標とする。そのため、文法と訳読を並行して行ない、基本的文法事項の習得は11月初旬までに終わる。その後は文法的観点から原書を訳読する。

【評価方法】 小試験、定期試験、授業態度、宿題の提出などから総合的に判断する。

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06002 06012	基礎スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（西）	必	1	各2	前期 後期	大 岩 勉
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 この授業では、スペイン語のアルファベットから開始されます。「これまでスペイン語など全然勉強したことが無い」ということを前提として授業を進めていきますから心配することはありません。Ⅰ・Ⅱの授業により、現代スペイン語の基本的な部分は全部説明します。

【講義計画】 4月の第2週から前期定期試験までの、ほぼ25回の授業で、直説法の動詞の説明は全部終了します。人称代名詞・関係詞・再帰動詞などについても前期のうちに勉強します。ということは、「4ヶ月でスペイン語がかなり分かるようになる」ことを意味します。

9月下旬からの後期の授業では、接続法の説明が一番のポイントになります。スペイン語では、「接続法と再帰動詞が分りさえすれば物になったのも同然」とよく言われるように、接続法の理解と感覚的に慣れることが最重要課題となるでしょう。そのために、出来るだけ多くのスペイン語の文章に触れることが必要ですから、プリント教材を使用して勉強します。

具体的には10月の下旬頃から、現代スペイン語の文章を読むことが出来るようになります。辞書を徹底的に利用する習慣をきちんと身につける最も重要な時期でもある訳です。

【評価方法】 授業時の質疑応答・出席状況、そして定期試験の結果などを踏まえて総合的に判断します。

【テキスト】 テキスト：大岩・高橋『現代スペイン語文法 改訂版』（白水社）
プリントも教材として配布します。
辞書：『西和中辞典』（小学館）
『現代スペイン語辞典』（白水社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06021 06031	基礎スペイン語Ⅰ・Ⅱ講読（西）	必	1	各1	前期 後期	川 田 玲 子
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 スペイン語文法の進み具合に合わせて進めていく。簡単な文章を読みながら、基礎的文法事項を確認し、読解力を養うことを目的とする。

【講義計画】 前期ははじめてのスペイン語講読なので、簡単な文章を読む。語彙を豊富にするためにくり返し暗唱する。後期は、前期に学んだ語彙を生かし、新聞や雑誌などの記事も読んでいく。
授業に自主的に参加できるよう、予習は必ずしてくること。

【評価方法】 前期・後期とも小テストおよび定期試験の総合評価とする。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06041 06042 06051 06052	基礎スペイン語 I・II 作文 (西)	必	1	各1	前 期 後 期	A. Cárdenas
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重複 履 修 不可

【講義内容】 El objetivo principal de este curso es el de promover desarrollo de la expresión escrita en español.

【講義計画】 La clase consistirá en una gran variedad de actividades en las que los alumnos harán uso de sus conocimientos básicos de español para comunicarse en forma escrita. Se pondrá énfasis primordial en formas para llenar y en la redacción de recados y cartas.

【評価方法】 La evaluación final se basará en la asistencia, el grado de participación en la clase, las tareas y un examen.

【テキスト】 Cárdenas, A., POR ESCRITO. Actividades de expresión escrita. Edición piloto.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06101 06151	スペイン語 I・II 文法 (文)		1			大 岩 勉
他の科目 との関連					他学科 履 修	重複 履 修 不可

【講義内容】 選択必修外国語科目としてのスペイン語のこの授業では、スペイン語のもっとも基本的な部分のみを、理解することを目指して講義を進めていきます。同時に「外国語＝英語」であると思い込んでいる多くの学生に、英語以外の系統の、スペイン語、イタリア語、フランス語、ポルトガル語などの「ロマンス系の言語」の存在を意識してもらえるような説明も織り込んでいきたいと考えています。

1 年間の授業でスペイン語の基礎はしっかり理解できるような内容にします。言いかえれば、辞書さえあれば、新聞・雑誌などのスペイン語はわかるようになる訳です。

【講義計画】 スペイン語 I の前期の授業では、現代スペイン語の音声から開始し、動詞の形態、名詞の性、人称代名詞、指示語、所有形容詞、再帰動詞まで進みます。

II の後期の授業では、残りの部分：複合時制、関係詞、準動詞、接続法を扱います。

【評価方法】 出席状況・授業時の質疑応答・定期試験の結果など総合的に判断して評価します。

【テキスト】 テキスト：大岩・高橋『現代スペイン語文法 改訂版』（白水社）
辞書：『現代スペイン語辞典』（白水社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06102 06152	スペイン語 I・II 文法 (文)	選・必	1	各1	前 期 後 期	加 藤 隆 浩
他の科目 との関連					他学科 履 修	重複 履 修

【講義内容】 スペイン語文法の初歩から始め、中級に進めるだけの実力を養成する。

【講義計画】 前期 アルファベットと発音 後期 未来形

アクセント
名詞の性と数、形容詞
定冠詞と不定冠詞
人称代名詞
規則動詞と不規則動詞の直説法現在
再帰動詞
点過去
線過去
分詞と完了形

過去未来
関係詞
接続法
接続法現在
接続法過去
接続法過去完了
命令形

【評価方法】 4週ごとに行う小テストと定期テストの総合点で評価

【テキスト】 大岩・高橋著『現代スペイン文法』（白水社）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
06111 06161	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（外）	選・必	1	各1	前期 後期	佐竹 謙一
他の科目 との関連				他学科 履修		重複 履修 不可

【副 題】 スペイン語の文法を中心に、簡単な講読や作文の練習も行う。

【評価方法】 筆記試験による評価。

【テキスト】 宮本博士著、*Bienvenido al Mundo Español*（大学書林）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
06112 06162	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（外）	選・必	1	各1	前期 後期	立岩 礼子
他の科目 との関連				他学科 履修		重複 履修

【講義内容】 スペイン語の基礎文法を学び、平易な文章を正しく理解することを目指します。名詞を中心とした性数一致や直説法における動詞の活用とその用法などの文法事項を確実に把握していきます。

【講義計画】 前期はまず辞書の使い方に慣れながら、冠詞・名詞・形容詞の性数一致、動詞を中心に直説法現在形、現在進行形、現在完了形などを学びます。後期は直説法過去形を主とし、時制に変化のある文章を理解することに努めます。

【評価方法】 定期試験、小テスト、出席状況などを総合評価します。

【テキスト】 初回の授業でテキスト及び辞書を指定します。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
06121 06171	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（経）	選・必	1	各1	前期 後期	布施 温
他の科目 との関連				他学科 履修		重複 履修 不可

【講義内容】 スペイン語の基礎を会話体を中心としたスペインでも作られた教科書で習得する。短文を主として会話文も随時練習する。

【講義計画】 スペイン語の初習者は、動詞の活用に慣れる必要がある。活用体系は複雑なので少しずつ練習する。そのために使用語数が数百程度の本を選んでいる。直説法未来までを学ぶ。

【評価方法】 期末試験、授業での応答、出席の総合評価による。

【テキスト】 *Español en directo IA*

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06122 06172 06231 06281	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（経） スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（営・情）	選・必	1	各1	前期 後期	利 光 和 彦
他の科目 との関連					他学科 履 修	重 複 履 修

【講義内容】 初心者を対象にスペイン語の基礎文法、特に動詞活用を中心に学ぶ。

【講義計画】 英語と比較、検討しながらスペイン語の特質の理解を深める。尚作文、会話中心のクラスでは同一テキストの会話部分も対象とする。

【評価方法】 定期試験及び受講態度、出席等により総合的に評価する。

【テキスト】 細川幸夫著『英語からスペイン語へ』（芸林書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06131 06181	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（営・情）	選・必	1	各1	前期 後期	角 田 哲 康
他の科目 との関連					他学科 履 修	重 複 履 修

【講義内容】 スペイン語の基礎文法習得

【講義計画】 前期ではスペイン語の発音から始め、現在形の動詞の変化を中心に講義を進める。後期は、過去形・未来形の変化を更に学びながら、スペイン語の基礎文法を身につけてゆく。

【評価方法】 平常点（出席・小テスト）および定期試験の結果を総合的に評価する。

【テキスト】 未定（開校時に指示）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06132 06182	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（営・情）	選・必	1	各1	前期 後期	宮 下 克 子
他の科目 との関連					他学科 履 修	重 複 履 修

【講義内容】 初級文法を学習する。前期は発音、綴り方、形容詞、規則動詞、不規則動詞の現在形を学び、後期は主に、目的格人称代名詞、再帰動詞、動詞の過去及び未来時制を学ぶ。テキストには簡単な会話、作文も含まれているため、総合的な力が養える。

【講義計画】

1. 単母音・単子音
2. 注意すべき綴り方、アルファベット、強母音弱母音、二重子音
3. 音節、強勢、アクセント記号、主格人称代名詞
4. 国と国民、形容詞
5. 名詞と冠詞、名詞と形容詞の語順、存在文
6. 動詞（tener）、時刻、週、月
7. 規則動詞（-ar, -er, -ir）
8. 不規則動詞①、自己紹介

9. 不規則動詞②、天候、時間
10. 所有詞①②、指示詞①
11. 指示詞②、比較級と最上級
12. 直接目的語と間接目的語、目的格人称代名詞

【評価方法】 試験・出席・授業中の態度

【テキスト】 福嶋教隆『新世代のスペイン語（入門編）』（くろしお出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06141 06191	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（法）	選	1	各1	前期 後期	木 下 登
他の科目 との関連					他学科 履 修	重 複 履 修

【副 題】 スペイン語文法の習得を目標とする

【講義内容】 スペイン語文法の教科書に沿って全般的に学び、辞書を使用すれば一般的なスペイン語文の読解が可能となることを目指す。

【評価方法】 定期試験のほかに随時小テストを実施する。

【テキスト】 開講時に指示。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06142 06192	スペイン語Ⅰ・Ⅱ文法（法）	選・必	1	各1	前期 後期	川 田 玲 子
他の科目 との関連					他学科 履 修	重 複 履 修

【講義内容】 初心者を対象とした初級文法事項の習得をし、スペイン語の基礎固めとする。「辞書を使えば簡単な文章は読める」を到達目標とする。

【講義計画】 学習内容は、①名詞の性・数 ②冠詞 ③代名詞 ④形容詞 ⑤副詞 ⑥動詞（活用・時制・用法など）⑦その他
毎回いくつかの文章を暗唱する。

【評価方法】 出席を重視する。小テストおよび定期試験の総合評価とする。

【テキスト】 第1回目の授業で指定する。西和辞典を持ってくること。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06201 06251	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（文）	選・必	1	各1	前期 後期	立 岩 礼 子
他の科目 との関連					他学科 履 修	重 複 履 修

【講義内容】 スペイン語の基礎文法を学び、自分の考えを正しいスペイン語に文章化することに努めます。動詞の活用と用法を理解し、主語、目的語、補語などに変化をつけていきます。

【講義計画】 前期は基礎文法を学び、短い文章を作ります。主要な文法項目は冠詞・名詞・形容詞の性数一致、動詞を中心に直説法現在形、現在進行形、現在完了形などを予定します。
後期は時制に変化をつけた文章を組み立てていきます。

【評価方法】 定期試験、小テスト、出席状況などを総合評価します。

【テキスト】 初回の授業でテキスト及び辞書を指定します。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06202 06252	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（文）	選	1	各1	前期 後期	遅野井茂雄
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 基礎文法に基づいた平易なスペイン語の作文と会話を行なう。

【評価方法】 平常点と試験

【テキスト】 大岩・高橋著『現代スペイン語文法』（改訂版）（白水社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06211 06261	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（外）		1	各1	前期 後期	芝 修 身
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 やさしいスペイン語表現を口頭と筆記で行なえるようになることを目指す。受講者は十分予習してくること。テキストは第一回目の授業において販売する予定。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06212 06262	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（外）	選・必	1	各1	前期 後期	布 施 温
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語の基礎を会話体を中心としたスペインで作られた教科書で練習する。随時、短文を主とした作文も練習する。

【講義計画】 スペイン語の初習者は、動詞の活用に慣れる必要がある。活用体系は複雑なので少しずつ練習する。そのために使用語数は数百程度の本を選んでいる。直説法未来までを学ぶ。

【評価方法】 期末試験、授業での応答、出席の総合評価による。

【テキスト】 *Español en directo 1A*

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06221 06271	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（経）	選・必	1	各1	前期 後期	角 田 哲 康
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 スペイン語の基本的語学能力の習得

【講義計画】 前期ではスペイン語の現在形の動詞を中心とし、後期では、過去形・未来形の変化を学ぶことを

主とし、やさしい作文を学んでゆく。【表式欄外】

【評価方法】 平常点（出席・小テスト）および定期試験の結果を総合的に評価する。【表式欄外】

【テキスト】 未定（開校時に指示）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
06222 06272	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（経）	選・必	1	各1	前期 後期	宮下 克子
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【講義内容】 初級の購読と作文を行う。漸次、必要な文法を説明し、練習問題で応用力をつける。内容は、外国人にスペイン語とスペインの歴史、文化を教える教師であるファンとマリアを中心に、様々な場面での彼らと生徒達の関わりの中で、スペイン語の表現と、スペイン人の一般的な生活・習慣を学ぶ。

【講義計画】

- ・発音
- ・あいさつと紹介
- ・買物
- ・ホームパーティー
- ・山の週末
- ・病気
- ・マドリード・その歴史と芸術
- ・数字
- ・時間
- ・スペインを巡る旅の日記
- ・スペインのクリスマス
- ・スペインの料理

【評価方法】 試験・出席・授業中の態度

【テキスト】 Maria Teresa Lajo *Juan y Maria*（芸林書房）
（ファンとマリア）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
06232 06282	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（営情）	選・必	1	各1	前期 後期	高橋 覚二
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 現地で、日常的な事柄をスペイン語で伝えることが出来るだけの会話力・作文力をつけることを目標とする。

【評価方法】 小試験、定期試験、授業態度を総合的に判断する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
06241 06291	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文（法）	選・必	1	各1	前期 後期	F. Rey
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 スペイン語会話の勉強します。日常生活に必要な挨拶や表現、語彙、基礎的な文法などを、会話練習をすることにより身につけてもらいます。
活発にクラスに参加してください。スペインの文化も紹介します。

【講義計画】 毎回教科書どおりに会話、文法、練習問題、読書とバランスのよい教材を使用します。
 会話のテープを聞きます
 時々ビデオを使います
 会話を覚えさせて皆さんの前で実演します

【評価方法】 出席日数と授業態度と試験の点数で評価します。

【テキスト】 *Viaje al Español : San Miguel I. and Rey F.* (白水社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06242 06292	スペイン語Ⅰ・Ⅱ作文(法)	選	1	各1	前期 後期	遅野井茂雄
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 基礎文法に基づいた平易なスペイン語の作文と会話を行う。

【評価方法】 平常点と試験

【テキスト】 大岩・高橋『現代スペイン語文法』〔改訂版〕(白水社)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06294 06296	スペイン語Ⅲ・Ⅳ作文(全)	選	2～4	各1	前期 後期	E. Goicoechea
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修 不可

【講義内容】 Complementar lo aprendido en Primer curso y a la vez conocer España y Latín-América.

【講義計画】 Lectura, escritura y conversación

【評価方法】 Se tendrá en cuenta la asistencia a clase y la preparación de la misma.

【テキスト】 プリントを使用。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06301 06311	スペイン語Ⅲ・Ⅳ講読(全)	選	2～4	各1	前期 後期	有本紀明
他の科目 との関連				他学科 履 修		重 複 履 修

【講義内容】 スペイン語の初級文法を一通り終わった人を対象に、平易なスペイン語で書かれた文学作品を文法的に正しく解釈しつつ、内容を味わいながら読み進めていく。目標は辞書を片手に自分でスペイン語の原書を読みこなせるだけの読解力をつけることである。

【テキスト】 授業開始時に指示する。成績は試験、授業態度などを総合的に判断する。

ポルトガル語

ブラジルポルトガル語とは、ブラジルにおいて使用されているポルトガル語といった意味です。ポルトガル本国のポルトガル語とは、発音や語彙の面で若干の差があっても、本質的には同じですから、単にポルトガル語という人もいます。

いずれの名称を使うにせよ、ブラジルポルトガル語は、スペイン語と同様に、ロマンス系諸語の中の一つであり、スペイン語、フランス語、イタリア語などとは姉妹語の関係にあります。特にスペイン語とは著しく類似し、日本人には比較的学びやすい外国語とすることができるでしょう。

ポルトガル語は、ブラジルのほか、ポルトガルはもちろんアンゴラ、モザンビーク、などの旧ポルトガル海外領において、公用語になっていますが、ラテン・アメリカ諸国の中でも、特に日本からの進出企業を数百社も受入れているブラジルとの関係を考えるとき将来に対する布石として、ブラジルポルトガル語を勉強しておくことは意味あることと考えられます。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
06501 06521	ポルトガル語 I・II 文法 (全)	選	1	各1	前期 後期	富野 幹雄
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 主としてブラジルで使われているポルトガル語の文法の重要事項を学ぶ。一応の目安として、辞書があれば、平易なポルトガル語の文章を読むことができるようになることを目指している。

【講義計画】 前期には直接法現在と過去、その他の基礎的な文法事項を学習し、後期はできれば、持続法まで進みたいと思う。

【評価方法】 筆記試験（期末）と小テスト（随時）

【テキスト】 富野幹雄『ポルトガル語の基礎』（大学書林）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
06541 06561	ポルトガル語 I・II 作文 (全)		1	各1	前期 後期	丸山 めぐみ
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【講義内容】 現在ブラジルで使われているポルトガル語の基礎的な会話・作文の習得を目指す。
会話については、挨拶するだけで終わるのではなく一歩踏み込んで必ず一言話せるようにする。日本語の五十音に当てはめた発音から脱皮してブラジル人が聞いてわかるポルトガル語が話せるように正しい発音の習得を目指す。

作文については、簡単な文章表現で自己紹介が出来るようにする。

会話にはヒアリング力が必要不可欠です。そこで、本講義ではテープやビデオを頻繁に使用するようにしています。

【講義計画】 ビデオを見ること、テープを聞くこと、プリントを読むことを通し、ポルトガル語の基礎的な文章表現を学ぶ。さらに、ブラジル・ポルトガル語が話されている国、ブラジル、そしてポルトガル語の発祥の地、ポルトガルについての地理や歴史、文化を共に学んでいきましょう。

【評価方法】 平常点、口頭、および学期末テストの成績による。出席も重視する。

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
06621 06631	ポルトガル語Ⅲ・Ⅳ会話 (旧ブラジルポルトガル語Ⅱ〔随〕)	随	2～4	各1	前 期 後 期	丸 山 め ぐ み
他の科目 との関連	ポルトガル語ⅠとⅡ作文(全)を必ず履修しておくこと			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

- 【講義内容】 現在ブラジルで使われているポルトガル語を中心に、より高度な会話・作文の習得を目指す。
 会話については、人の話を聞いて自分の意見を言えるようにする。自分から話しかけることができるようにする。
 作文については、自己紹介にとどまらず新聞記事やプリントの内容に対する自分の意見などを述べられるようにする。
 言葉話すには、自分の中に確かな知識や考え、意見を持っていることが大切です。そういう意味でポルトガル語を通して様々なことを共に学んでいきましょう。

- 【講義計画】 ビデオを見ること、テープを聞くこと、プリントを読むことを通し、以下のテーマについてポルトガル語で共に学んでいく。
 ①ブラジルの文化
 ②ブラジルの音楽
 ③ブラジルのスポーツ：サッカー、F1など
 ④ブラジル・アマゾンの森林
 ⑤ブラジル・パンタナルの自然 他

- 【評価方法】 平常点、および学期末テストの成績による。出席も重視する。

- 【テキスト】 プリントを配布する。

中国語

中国には50を越える民族が生活しており多様な言語を使用しています。その中で人口の9割以上を占める漢民族の言語はこれを「漢語」といいます。しかし、広大な中国大陸のことですから、「漢語」と一口にいっても地域差が非常に大きく、漢民族同士でもその方言圏が異なれば意思の疎通は全く不可能といってよいでしょう。そこでつくり出されたのが標準語です。北京の言葉に基づいたもので、ラジオやテレビ、学校などを通じ全国に普及しています。これを「普通話」といいます。また、「国語」や「華語」などといったりもしますが、台湾や香港、シンガポールなどにおいても標準語は広く用いられています。われわれの学ぶ中国語とはこの標準語なのです。

実際の学習においては、第一に、初歩的な会話の力が備わることを目指します。そして受講生の到達した水準を確認するために、適宜暗唱や聞きとりの検査をおこないます。また、学期途中から、作文や翻訳の小演習をとりいれ、基本的な読解の力の養成をはかります。

ラテン語

ラテン語 LINGUA LATINA

I ラテン語のすすめ。

ラテン語は西洋古典語ですが、同時に現代欧州諸言語の源流です。日本の大学でも、南山大ほか、ごく限られた所でしか学べない広域文化言語です。教養としてラテン語を学ぶ意義について、ラテン語の例文を使いながら具体的に説明し、履修をすすめておきたいと思います。

- (1) “Studium linguae latinae est utile discendae linguae anglicae.” 「ラテン語の勉強は、英語を学ぶために役に立つ」。――すでに6年間、中学、高等学校で学んできた英語ですが、大学でさらにその知識や理解を深めるために、ラテン語の勉強は少なからず役に立つと思います。実は英語は7000語以上の単語をラテン語から受け取り、今もそのまま使っていますが、そのことはあまり知られていないようです。その語源や由来を知るだけでも楽しいものです。昔、ローマ帝国領土内(アフリカ、欧州全体、東欧諸国)で主要言語として使用されていたラテン語(インド・ヨーロッパ語族系の言語)が「親」となり、地方言語と混じり合いながら「ロマンス語」(Linguae Romanae)といわれる「子どもたち」、つまり「フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語・ルーマニア語、レトロマン語」などを生み出しました。したがって、この「親子・姉妹」は顔も形も(語彙も文法も)よく似ているわけです。たとえば「学校」という単語一つ取ってみても、一目瞭然です。上記の語源順に、*école* (フ)、*escuela* (ス)、*escola* (ポ)、*scoala* (ル)、*scola* (レ)となり、ゲルマン語系のドイツ語*Schule*、英語*school*も、みなラテン語*schola*經由の「借用語」です。これはギリシャ語*σχολή*=skhole、元の意味は、①停止・休息・余暇、②余暇にすること、子どものための勉強や訓練など、③そのための場所としての「学校」など多義にわたる単語)まで語源をたどることができます。またラテン語は、中世の教会や大学を中心に長い間、宗教・神学・哲学・文学・天文学・音楽・教育・法学・医学・生物学など、広範な分野の「専門用語」として用いられてきました。このよう

に現代西欧諸言語の源流、文化の担い手としてのラテン語は、今もなお語学を学ぶ人々にとって、興味の尽きない「すてきな言語」「fantastic language」なのです。

- (2) “HOMINIS DIGNITATI”——「人間の尊厳のために」。南山大学の教育理念をあらわすこの横文字は、ラテン語です。英語では、“For Human Dignity”といいます。入社試験の面接で尋ねられた人もいたそうです。卒業までに、南山大学のモットーくらいは、必ず、「ラ・英・日」の3か国語で覚えておきましょう。G棟ロビーの壁には、その他にも、“PAX IN ORBE TERRARUM”「地上に平和あれ!」、 “VITAM IMPENDERE VERO”「真実のために命をかけよ」、 “LEX LIBERTATIS, LEX AMORIS”「自由の法は、愛の法」など南山大学の教育理念を説明する7つの「ラテン語」が掲げられていますが、これも授業中に順次詳しく解説します。
- (3) “Studia adolescentiam alunt, senectutem delectant.” (Cicero 106-43BC)「勉学は青年を養い、老年を楽しませる。」(キケロ)。——2000年以上も昔の政治家・雄弁家・著作家キケロのこの言葉のように、ラテン語の勉強はただ単に「学生時代」に語源的な知識や理解を深め興味を増すだけではありません。格言、名言、聖書の言葉、ラテン語の音楽鑑賞などにより身につけた豊かな教養をもとにして、将来、社会人として、さらには、熟年期を迎えても、きっと豊かで楽しい日々を過ごすことができるでしょう。最近、「社会人講座」とか「生涯学習」という言葉が定着してきたようですが、実際、定年退職したお父さんや、子育ての終わったお母さんが、数年前から熱心にラテン語も聴講しています。そこで、余暇のある大学生の皆さんのなかで「意欲的な人」には、ラテン語に親しむことをすすめます。とくに語学の教員になりたい人、語学に興味のある人、あるいは3・4年次生で時間割にゆとりがある人、大学時代にしか学べないものを搜している人に、ラテン語の履修をすすめます。ただし、英語以外の語学(フランス語・ドイツ語・スペイン語)を1年生で必修科目としている学生は、まずそれに全精力を注ぐほうがよいでしょう。
- ところで、「語学の勉強のこつは?」と時々尋ねられますが、ラテン語の勉強にはてっ取り早い方法や「近道」などはなく、試験直前の「一夜漬」もききません。まさに、“Gutta cavat lapidem, non vi, sed saepe cadendo.”「水滴石をも穿つ」と言う格言どおり、水滴のように繰り返す同じことをやってみること、つまり「小さな努力」の積み重ねが大切です。毎日、興味をもって、積極的に、少しずつ繰り返し、繰り返し努力していけば、終わりの日に、きっと「初志貫徹の喜び」を味わうことでしょう。このことを、昔の人は簡潔に、しかも巧みに言っています。“Repetitio est mater studiorum.”「反復は勉学の母なり」と。
- (4) “Non scholae sed vitae discimus.”(Seneca 5(4)BC~AD65)「われわれは学校のためではなく、人生のために学ぶ」。——ローマの哲学者セネカのこの言葉は、大学での勉強にも、あてはまるのではないのでしょうか。何のために学ぶのか、を自覚して取り組むことです。「今の自分」に役に立つものとか、卒業に必要な科目や単位だけを拾い集めて、1460日という限られた大学4年間を終えることもできます。しかし、「今役に立つものが、将来、必ずしも役に立つとは限りません。逆に、今役に立たないと思われたものが、案外、あとで役に立つかもしれません」。ますます多言語・多文化の世界となっていく21世紀に向けて、英語以外の言語の必要性が高まっています。欧州諸言語の源流である「ラテン語」を今学んでおけば、将来、現地での言葉の習得や国際交流にも、教養としてきっと為になるでしょう。高校で英語の先生をしている卒業生・Y君が先日、ラテン語の教科書や資料持参で訪ねて来て(ラテン語を勉強したことについて、懐かしがりながら)「英語を教えるのに、とても役に立っていますよ」と言っていました。……。

II. 本年度開講科目について。

本書の関係箇所を参照してください。

ラテン語Ⅰ・Ⅱ(文法・講読)……………	136頁
ラテン語Ⅲ・Ⅳ(文法・講読)……………	137頁
基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ(文法・講読)……………	137頁
ラテン語(中級)Ⅰ・Ⅱ……………	345頁
	以上

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07501 07511	ラテン語Ⅰ・Ⅱ(文法・講読)		1~4	各2	前期 後期	吉 田 聖
他の科目 との関連	「ラテン語Ⅲ・Ⅳ」「(中級)Ⅰ・Ⅱ」を履修するための前提科目			他学科 履 修		重 複 履 修

【副 題】 ラテン語の基礎知識の習得をめざして

【講義内容】 教科書『ラテン文法』を中心に、プリント資料も利用しながら、ラテン語の文法や語彙など基礎知識を身につける。

【講義計画】 授業で取り扱う項目は次の通りである。

- ①南山大学の教育理念(HOMINIS DIGNITATI, 他6つのラテン語文)の解説。
- ②ラテン語の聖書・格言・名言等の紹介と解説。
- ③「ラテン語の歌」の鑑賞、文法や語彙の理解。
- ④英語の単語や日常用語について、その語源や由来の再発見。
- ⑤Reaction Paperの提出。授業に関する質問、感想、提案等。
(同時に出席を確認する)

- 【評価方法】 ①出欠をとる。(欠席過多者は期末試験の受検資格を失う)
②筆記試験、出欠状況をもとに、総合的に評価する。

- 【テキスト】 教科書『ラテン文法』(中央出版社)
辞書 田中秀央『羅和事典』(研究社)
教科書と辞書は大学構内・日進堂書店で購入し、最初の授業日に持参すること。
NB: 主に文学部・神学科1年次生、哲学科他、高学年優先で定員40名まで。定員超過の場合には、「基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ」の履修をすすめる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07521 07531	ラテン語Ⅲ・Ⅳ(文法・講読)		2~4	各2	前期 後期	吉 田 聖
他の科目との関連	「ラテン語Ⅰ・Ⅱ」「基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ」の履修完了者のみ。			他学科履修		重複履修

- 【副 題】 ラテン語の文献講読コース

- 【講義内容】 聖書、ギリシャ・ローマ神話、Ciceroや他の著作家の種々のラテン語文献を講読研究する。“Non potest arbor bona fructus malos facere, neque arbor mala fructus bonos facere.”(Mt7,18)「良い木が悪い実を結ぶことはなく、悪い木が良い実を結ぶこともできない。」(マタイ7,18)。このように比較的やさしいラテン語の聖書やイソップ物語から始め、ラテン語に親しみ、文法的知識や語彙などを増やしていく。

- 【講義計画】 ①文法書と辞書を使って、各自が文献(分担箇所)の解読を試みる
②それを授業中に順番に発表して、受講者一同で分かち合う
③各自は、自分のノートで訂正確認をしながら、基礎知識を深めていく
月34: ①ラテン語の旧約・新約聖書、および教会ラテン語の文献
木56: ③イソップ物語、ギリシャ・ローマ神話の文献等

- 【評価方法】 ①出欠をとる(欠席過多者は期末試験の受検資格を失う)
②筆記試験、出欠状況をもとに、総合的に評価する

- 【テキスト】 プリントにして配布する。
文法書『ラテン文法』(中央出版社)
辞書 田中秀央『羅和事典』(研究社)
NB: 「ラテン語Ⅰ・Ⅱ」「基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ」履修完了者のみ。神学科2年次生を優先。高学年より、定員20名まで。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07541 07551	基礎ラテン語Ⅰ・Ⅱ(文法・講読)		1~4	各2	前期 後期	吉 田 聖
他の科目との関連	「ラテン語Ⅲ・Ⅳ」「(中級)Ⅰ・Ⅱ」を履修するための前提科目			他学科履修		重複履修

- 【副 題】 ラテン語の基礎知識の習得をめざして

- 【講義内容】 教科書『ラテン語の学び方』を中心に、プリント資料も利用しながら、ラテン語の文法や語彙など基礎知識を身につける。

- 【講義計画】 授業で取り扱う項目は次の通りである。
①南山大学の教育理念(HOMINIS DIGNITATI、他6つのラテン語文)の解説
②ラテン語の聖書・格言・名言等の紹介と解説
③「ラテン語の歌」の鑑賞、文法や語彙の理解
④英語の単語や日常用語について、その語源や由来の再発見
⑤Reaction Paperの提出。授業に関する質問、感想、提案等(同時に出欠を確認する)

- 【評価方法】 ①出欠をとる(欠席過多者は期末試験の受検資格を失う)

②筆記試験、出欠状況をもとに、総合的に評価する

【テキスト】 アモロス著『ラテン語の学び方』（南窓社、1985）

NB：定員20名。定員過少の場合には、「ラテン語Ⅰ・Ⅱ」と人数の調整、または乗り入れを検討する。確定後、各科目指定の教科書を大学構内・日進堂書店で購入しておくこと。

ギリシャ語

古代ギリシャ語といっても、時代によってかなりの相違がありますが、ギリシャの古典及びキリスト教文献が著されたギリシャ語全体を総称する名称だと考えて下さい。

「地中海世界」のコミュニケーションは、このギリシャ語で行われました。アレクサンドロス大王が統一した東地中海世界は、やがてローマ帝国によって吸収されて、一大文明（ヘレニズム）世界へと発展しました。前八世紀頃から、本来の意味でのギリシャ古典といわれる叙事詩や叙情詩がありますが、しかし、この段階では、ギリシャ語はまだ地域によってかなりの差がありました。前五世紀以降になって、アテナイがギリシャ文化の中心となり、他の地域のギリシャ語を吸収して、いわゆる古典ギリシャ語を形成しました。ギリシャ語の国際化は、アレクサンドロス大王の遠征と共に始まりました。ギリシャは前二世紀以降、ローマ人の勢力下に置かれましたが、ギリシャ語は「地中海世界」の共通語でした。紀元後一世紀に著述された新約聖書が、ギリシャ語で書かれているのも、その証拠です。実に、古代ギリシャ語で、世界文学の古典といわれる多くの作品が残されています。古代ギリシャ語の習得はその広い世界を開いてくれる重要な鍵であります。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07601	基礎ギリシア語Ⅰ 文法・講読	選	1～4	2	前期	金子善彦
他の科目との関連				他学科履修		重複履修 不可

【副 題】 ギリシア語初歩

【講義内容】 この講義の目的は、今から2千年以上前古代ギリシアで使用されたギリシア語の文法を一通り習得することにある。現代の多くの学問が古代ギリシアに起源をもつことを考えれば、神学、哲学だけでなく、様々な学問を専攻する人たちにとって、古典ギリシア語の初歩を学ぶことは非常に有益であろう。できるだけ多様な学問領域の人たちによる受講を期待する。

【講義計画】 下記のテキストに沿って進める。文法の項目ごとに丁寧な説明をした後、その知識をもとに練習問題を実際に解いてもらう。とくに前期は、ギリシア語のもっとも基礎的な部分を扱うことになるので、より複雑な内容を学ぶ後期へのステップとして、確実な知識の習得が要求される。

【評価方法】 とくに出席を重視する。

【テキスト】 田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』（岩波書店）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
07621	基礎ギリシア語Ⅱ（文法・講読）	選	1～4	2	後期	岡崎才蔵
他の科目との関連	基礎ギリシア語Ⅰを履修のこと			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 ギリシア語文の講読を中心としながら、基礎ギリシア語Ⅰで説明できなかった初級文法を学ぶことを目的とする。

【講義計画】 田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門』（岩波書店）の文法項目にふさわしいギリシア語文を抜粋して紹介し、各授業毎に講読する。

【評価方法】 語学の習得には繰返しを必要とするので、出席を重視する。

日本語

日本語が不足している留学生及び帰国子女を対象とした授業である。大学での専門別の研究には、1)講義が聞ける、2)論旨の整った、ある程度の長さのレポートが書ける、3)専攻分野の専門書が読める、という言語能力が要求されるので、この能力を高めることを目標に、速読、精読、そして作文に重点を置く。しかし、履修者の専門がかなり違うので、教材は語彙や内容の偏りを避けるために中庸のものを使用する。

この日本語履修に関しては「外国人留学生の授業科目履修に関する特例」を参照。

【評価方法】 試験・レポート・出席等で総合的に評価する。

【テキスト】 開講時に指示する。